

平成28年度(平成27年度対象)

教育委員会の点検・評価報告書

平成28年8月

養父市教育委員会

目 次

はじめに	P 1～P 2
教育委員会の点検・評価について	P 3～P 5
1 趣旨	
2 対象	
3 点検・評価の方法	
4 学識経験者の活用	
養父市教育委員会の平成 28 年度（平成 27 年度対象）点検・評価について （総括意見）	P 6～ P 9
平成 28 年度（平成 27 年度対象）養父市教育委員会評価調書	P 10～P 42
① 教育課題の把握と提言を行い、教育行政を推進する	
② 教育施設整備の充実を推進し、教育環境を整える	
③ 自立して物事に挑戦する態度を育成する	
④ 「生きる力」を育む教育を推進する	
⑤ 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する	
⑥ 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める	
⑦ 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る	
⑧ 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培い「生きる力」の基礎 を育む	
⑨ 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める	
⑩ 教育・保育施設の機能を充実させ、子育て支援を進める	
⑪ 市民の学習ニーズに応える社会教育・生涯学習を進める	
⑫ ふるさとの文化財を継承し、その保存と活用を進める	
⑬ 家庭・地域・学校が連携して、豊かな心を育む青少年の健全育成を進める	
⑭ 「元気な養父市～ひとり1スポーツで健康づくり～」を進める	

はじめに

養父市教育委員会は、第2次総合計画の施策などに基づき「平成27年度 教育推進の重点」において、幼児教育4項目、学校教育4項目、社会教育4項目の重点目標を掲げ、保護者や地域の方々のご理解とご支援をいただきながら、「明日を拓くこころ豊かなひとづくり」の諸施策を推進しました。

幼児教育では、「生きる力」の基礎を育むため、自然の中での遊びや動植物とのふれあいによる豊かな感性を培うとともに、異年齢交流による人間関係の構築や運動遊びプログラムによる体力づくりなどを推進しました。また、子どもを安心して育てられる環境づくりとして、引き続き「認定こども園」への移行を進めるとともに、教育・保育の質の充実向上のため、幼児教育指導主事などによる研修にも積極的に取り組みました。さらに、特別な支援が必要な子供に対しては、保健師、臨床心理士、家庭相談員が関係機関と連携し、保護者の理解のもとに積極的な支援を行いました。また、市民向けの子育て講座を実施し、子育てにおける保護者の負担感、孤立感の解消に努めました。

学校教育では、物事に挑戦する態度を育成するため、「自然学校」や「トライやる・ウィーク」などの体験活動を充実し、地域の自然や人々との関わりを通じて、ふるさと意識の醸成を図ることができました。また、「家庭学習の手引き」を活用し家庭との連携を図りながら学習習慣と「そうあんくんの日」の定着・充実を図りました。「生きる力」を育む教育の推進では、「やぶっ子夢プラン」並びに池田草庵をはじめとする先人に学ぶ教育の充実にも努めました。また、命と人権を大切にする心の教育として、いじめや不登校、児童虐待に迅速かつ適切に対応するため、道徳教育の充実や読書の時間の確保に努め、学校カウンセラーの配置等による支援体制の充実を図りました。子どもたちの学びを支える仕組みの確立では、情報通信機器によるトラブルと情報モラルの醸成を図るため、県立大学等の協力のもとに「ケータイ教室」を実施し、子どもたちによるルールづくりを進めました。

教育環境整備では、小・中学校体育館の防災機能強化工事がほぼ完了し、安全・安心な施設となりました。

社会教育では、市民が生きがいをもって生涯学習を推進するため、さまざまな学びの機会を提供し、市民の自発的な学習活動を支援しました。また、養父市らしい歴史と文化に根ざしたまちづくりを推進するため、国・県指定文化財の保存・修復に努めました。生涯スポーツでは、スポーツ団体と連携して各種スポーツイベントを開催するとともに、「正しいラジオ体操」「ノルディックウォーキン

グ」の普及を図るなど、市民が生涯にわたりそれぞれの年齢や体力・目的に応じて「いつでも、どこでも、だれでも」気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりに努めました。

「平成 28 年度養父市教育委員会の点検・評価」は、平成 27 年度中に養父市教育委員会が取り組んだ主な施策・事業について、点検・評価を行ったものです。この点検・評価の実施と公表により、広く市民の皆さまに教育委員会の活動状況や教育施策の実施状況をお知らせするとともに、より効果的な教育行政の推進に努める所存です。

養父市教育委員会

教育委員会の点検・評価について

養父市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、平成27年度事務事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表するものです。

※参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）（平成19年6月一部改正公布、平成20年4月施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 趣旨

教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、課題や対応方法を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するものです。

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たしていきます。

2 対象

点検・評価は、養父市教育委員会の「平成27年度教育推進の重点」の重点課題である教育総務2項目、学校教育4項目、幼児教育4項目、社会教育4項目及び教育委員会の活動状況、学校教育環境整備について（下記の14項目）対象といたしました。

（教育総務）

（1） 教育課題の把握と提言を行い、教育行政を推進する

(2) 教育施設整備の充実を推進し、教育環境を整える

(学校教育)

- (1) 自立して物事に挑戦する態度を育成する
- (2) 「生きる力」を育む教育を推進する
- (3) 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する
- (4) 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める

(幼児教育)

- (1) 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る
- (2) 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培い「生きる力」の基礎を育む
- (3) 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める
- (4) 教育・保育施設の機能を充実させ、子育て支援を進める。

(社会教育)

- (1) 市民の学習ニーズに応える社会教育・生涯学習を進める
- (2) ふるさとの文化財を継承し、その保存と活用を進める
- (3) 家庭・地域・学校が連携して、心豊かな心を育む青少年の健全育成を進める
- (4) 「元気な養父市～ひとり1スポーツで健康づくり～」を進める

3 点検・評価の方法

(1) 評価項目

上記の重点課題ごとの具体的な方策について評価項目にしています。

(2) 取組内容

項目ごとに実施した主な取組み内容を示しています。

(3) 達成状況

A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた

C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった の4段階で評価しています。

(4) 担当課評価・改善の方策

担当課の評価・改善方策を示しています。

(5) 自己点検・評価委員会評価

自己点検・評価委員会で行った事務事業の点検・評価、達成状況の評価を示しています。

(6) 外部評価委員会評価

外部評価委員会で行った検証・評価の意見及び達成状況の評価を示しています。

4 学識経験者の活用

点検及び評価を行うにあたっては、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることにより、客観性を確保するものであり、養父市教育委員会評価実施要綱に基づき、5名の委員の方々から様々なご意見とご指導をいただきました。

(1) 養父市教育委員会外部評価委員会委員

役職名	氏名
委員長	植木拓氏
副委員長	桐村侑昇
委員	前田日出子
委員	村上進一
委員	橋本裕子

(2) 養父市教育委員会外部評価委員会開催日

- ・ 第1回 平成28年7月19日
- ・ 第2回 平成28年7月27日

養父市教育委員会の平成 28 年度（平成 27 年度対象）点検・評価について

総括

前期より再任の委員 5 名の構成により審議を行いました。

昨年度も協議開始の時期やら、進め方についても改善事項としてあげさせていただいておりましたが例年以上にタイトな日程（会議 2 回）になったことは残念なことでした。委員会開催日程の遅れや評価調書作成上の不備もあり、各委員の方には大変ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫びいたします。このような限られた時間の中ではありましたが、活発な意見を多数いただき感謝いたします。

昨年同様の提案になりますが、時間的な制約をもう少し改善し、更に議論を深めるためにも、もう少し時間的にゆとりをもった評価委員会の開催が必要と思います。具体的には委員会の運営に関すること（会議の進め方、現場視察などの企画）を事前に協議する場合は必ず設定していただくよう、強く要望いたします。

昨年度提案させていただいた評価項目については、A～E という 5 段階の評価から A～D という 4 段階に変更され、まとめやすくなりました。ただどうしても B 評価に偏る傾向がみられてしまうので、（量的な評価については分かりやすいが質的なものについては、委員個々でも判断の基準が異なることが多い）評価のあり方については、継続して検討していく必要があると思います。

I 教育総務課の分野について

- ・各学校の施設改修、整備及び維持修繕は計画的に行われていると感じました。限られた予算の中ですが突発的な修繕等にも対応いただき、引き続き子どもたちの安全安心に配慮した改修や整備を進めてください。
- ・学校施設で年数の経過している排水、下水管の点検・清掃をお願いします。

II 学校教育課の分野について

- ・子どものみならず保護者ニーズの多様化に試行錯誤しながら対応をしていただき感謝しています。外部を含む多職種連携、ネットワークも充実してきているように感じました。それに伴い地域の人間が学校にも入りやすくなってきているように思います。地域全体で子どもを育てていくという理念を具体的に実践していただきたいと思います。事業の充実は、ややもすると事業のための事業になってしまいます。子どものためという本来の目的が薄れてしまうことがないようにしていただきたいと思います。

また、もっとも基本的な返事や挨拶の指導、地域の一員である我々も気をつけていきたいと思います。

- ・「そうあんくんの日」についても充実はしてきていますが、まだまだ抽象的な取組の部分もあります。先人教育としっかりと関連づけていく取組や、功績等より具体的に教えていく工夫等、各学校で内容的なさらなる深まりを期待しています。
- ・小中一貫教育の取組については、まだスタートしたばかりで色々と課題もあり大変と思いますが、全職員の共通認識を深めながら進めていただきたいと思います。「やる、やらないで逡巡するのではなくとにかくやってみる」という担当課の姿勢に期待し、市民にも積極的に発信していただきたいと思います。

Ⅲ こども育成課の分野について

- ・学校教育同様、成長に配慮しながら次につなげる多職種連携、取組が進んでいて良いと思います。将来を見通した取組になるよう期待しております。保護者の多様化に伴う個別対応を懸命に試行錯誤しているのが伝わり頭の下がる思いです。
- ・非正規職員の雇用形態についても今回初めてお話を伺うことができました。継続した子どもたちとの関係性といった観点からも少しでも長く続けることのできる待遇改善を実現していただきたいと思います。

Ⅳ 社会教育課の分野について

- ・この分野については、市全体の組織のこともありますが、特に公民館事業との位置づけが分かりにくく、行っている一部の事業に関して連携部分の複雑さもあり、担当部局が適正なのかどうか判断しにくい印象を持ちます。(例えば成人式等) そのため、現状の事業を維持することのみになっている印象が否めません。
- ・部局が異なるので公民館のあり方にはこの委員会では言及できませんが、他の教育分野との連携や公民館事業との兼ね合いなどを再編、整理する必要性も感じました。市自体の文化芸術分野の取組の弱さにも結びついているのではないかとも思いました。

V 生涯スポーツセンターの分野について

- ・旧町単位関係なく、また幅広い年齢層や参加者に配慮した事業が実施されており委員一同好感を持ちました。今後旧町単位の行事やイベントの枠組を考えていく参考になるのではと思いました。
- ・農業と運動、健康づくりを連動させたいという具体的な実践も楽しみにしております。

VI 給食センターについて

- ・新しく充実した環境と設備の中でこちらもアレルギー食などのきめ細かい対応をしていただき感謝しています。ハード面が充実してもやはり、根本的な部分では手作業中心の業務になることも多くあり、負担をかけますが子どもの安心・安全な給食提供のためによりしくお願いします。
- ・地産地消という部分も大事にしていますが、形が不揃いであることなどがあり、その分、加工に時間や手間がかかるという話を聞き驚きました。業者に対する啓蒙も継続して行ってください。
- ・食育の分野についても必ずしも人員（栄養士）が充足しているわけではないと思いますが、人材確保に向けて努力していただきたいと思います。

(おわりに)

今回も貴重な機会をいただいたことを、委員一同心より感謝しております。残念ながら今回は、総括のところであげたように委員会の運営の仕方という基本的な部分で問題点があったように思います。会議の時間設定等、色々な条件の人間が集まりやすい工夫はさらに検討の必要があります。

子どものみならず、全体人口の減少は避けがたく全ての分野において枠や事業の再編など、今まで以上に創意工夫が必要になってきます。その中でこの委員会のような「行政と市民の協働」の一端が言葉は悪いのですが「やっつけ仕事」のようになってしまうのは良くないことですし、新たな取組に関して「忙しい」「お金がない」「事務が煩雑」「人が足りない」等々の言い訳はできない理由にしてはならないと強く感じました。お金がなければ知恵を出すというシンプルな発想が行政と市民の協働という土俵の上で発揮される必要性は今後益々高まっていくと愚考します。

また個別の分野についての意見ですが、養父市は、文化・芸術の部分における取組が弱いと感じます。一案として文化庁の文化芸術による子どもの育成事業等を積極的に利用していただきたいと思います。

この度の貴重な経験を生かして今後各委員も地域の一員として更に市政に興味関心を持ち積極的に見守りながら声を挙げていく姿勢をもたねばと思います。ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

養父市教育委員会外部評価委員会

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 〇
 〇
 〇

【外部評価委員会評価】
 〇
 〇
 〇

評価者の別
 〇
 〇
 〇

教育総務課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点	教育総務
2 本年度の推進の重点を具体化した事業	1 教育課題の把握と提言を行い、教育行政を推進する
● 教育委員会の会議運営	
● 開かれた教育委員会	
● 教育委員としての活動	

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1 教育委員会の会議運営	1) 定例会議の開催 ・月1回の定例会議を開催し意見交換や審議を行う。 2) 事前協議会の開催 ・本会議の前に事前協議会を開催し会議の円滑化・活性化を図る。 3) 例規の整備 ・規則、要綱の制定及び一部改正や廃止について審議の上議決し、例規の整備と公布を行う。	B	1) 定例会議の開催 ・幼児教育分野・学校教育分野・社会教育分野の諸課題について意見交換や提言を行い養父市の教育の推進に取り組んだ。 2) 事前協議会の開催 ・定例会議の前に事前協議会を実施し、教育委員で事前学習や意見の調整を行った。事前学習により議論が活発に行われたようになり、意見の調整によってスムーズに会議を進めることができた。 3) 例規の整備 ・教育に関する規則や要綱等について審議を行い、承認や決定を行った。今後〇活発な会議運営が行われている。今後もスムーズで活発な会議運営を目指す。
2 開かれた教育委員会	1) 養父市ホームページの活用 ・養父市のお知らせを掲載する。 2) 市広報の活用 ・学校紹介及びその他広報の掲載を行う。	B	1) 養父市ホームページの活用 ・養父市のホームページにより、会議の開催状況の掲載を行った。 2) 市広報 ・学校紹介等の掲載を行った。
3 教育委員としての活動	1) 各種研修会への参加 ・但馬及び県の各教育委員会連合会研修会、各種研修大会等に積極的に出席する。 2) 保育所、幼児センター、小・中・中学校の訪問 ・多くの幼・保育施設、学校園を訪問し、経営研究会で進言する。 3) 各種行事への積極的な参加 ・市、学校、地域の各種行事に積極的に参加し、市の教育行政の状況を把握する。 4) 市長との意見交換の実施 ・市長との意見交換を実施し、養父市の教育行政について協議を行った。	B	1) 各種研修会等への参加 ・教育委員会連合会主催する研修会等に積極的に参加して研修の向上に努めた。また、委員としての役割の向上に努めた。また、ケータイ教育や小中学校で開催された、教職員研修や小中学校で参加した、小中一貫教育やネットトラボラブルについての見識を深めた。 2) 各幼・保育施設、学校への訪問 ・これまでとは立派の幼・保育施設、学校園訪問を行っていたが、今年度初めて私立園の園訪問を行い、子ども子育て新制度施行後の市内の保育の現状把握に努めた。 3) 各種行事への積極的な参加 ・入学式、卒業式をはじめ市、各種団体のイベント等に出席し、活動状況の把握に努めた。行事への参加が市民からの教育行政に対する意見等を聴取する機会となった。 4) 市長との懇談会の実施 ・小中一貫教育やネットトラボラブル、選挙権の18歳引き下げ等について活発な意見交換を行った。 〇活発な委員活動ができた。引き続き委員活動の活性化を図る。

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
〇会議の開催、事前協議、例規の整備何れもよくできてきている。	A	〇年間12回の定例会議では、教育行政の諸課題について活発な意見交換や審議が行われている。引き続き養父市の教育振興に努めていただきたい。	A
〇市広報に教育委員会や学校の情報 を積極的に提供した。	B	〇市広報を通じて教育委員会の取組や、市内の学校・園の取組も掲載されている。今後も教育委員会や学校の取組を積極的に公開するよう努めていただきたい。	B
〇研修会、各種行事への参加、学校・園への訪問、市長との意見交換等積極的に進め、情報収集や委員と地域・学校の様々な行事、各種イベントに積極的に参加し、市民ニーズや地域課題の把握に努めた。また、市長と小中一貫教育やいじめ、ネットトラボラブル等についても活発な意見交換を行った。	A	〇教育委員として様々な研修会に参加し、情報収集や質の向上に努め、養父市の教育行政、教育活動の振興に努めていただきたい。	A

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別
 印
 印

教育総務課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 教育総務 2 教育施設整備の充実を推進し、教育環境を整える

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- 学校給食センター整備等事業
- 小中学校施設の維持管理等

3 自己評価結果 (A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
1 学校給食センター整備等事業	1) 関高等学校給食センター解体工事 ・平成27年11月に契約 ・平成28年11月末に解体工事完了 2) 大屋中学校給食センター解体工事 ・平成27年11月に契約 ・平成28年11月末に工事完了	B	1) 関高等学校給食センター解体工事 ・平成27年11月20日に契約 ・平成28年11月19日に解体工事完了 2) 大屋中学校給食センター解体工事 ・平成27年11月19日に契約 ・平成28年11月29日に解体工事完了 ○予定通り解体工事が完了した。	A	○旧給食センター(大屋、関西)の解体工事は予定どおり完了している。
2 小中学校施設の維持管理	1) 小中学校体育館防災強化工事の実施 下記工事を行い各学校の教育環境を整備する。 ・伊佐、宿南、高柳、建屋、大屋小学校 防災機能強化工事(吊天井撤去) ・養父、大屋、関西、八咫青浜中学校 防災機能強化工事(吊天井撤去) 2) その他主要な修繕工事の実施 ・八鹿小、養父小学校電話機修繕工事 ・広谷小学校電話機修繕工事 ・養父中、大屋中エレクトロニクス修繕工事	B	○小・中学校計9校の防災機能強化工事を実施した。 ○学校施設の定期的な点検、計画的な修繕工事を行う必要がある。	B	○小・中学校の体育館防災機能強化工事は予定どおり完了している。養父市合併後に完成した学校施設も10年経過した。計画的に修繕を行ない、大切に使用する必要がある。
3 小・中学校PC整備事業	1) 小中学校のパソコン更新事業 ・市内2小学校(養父小学校、大屋小学校)、1中学校(養父中学校)のパソコン教室、校務用パソコンの更新を行った。8月契約し、11月に整備が完了。 ○今後も年度計画に沿って計画的に更新する必要がある。	B	○計画どおり更新できた。 ○ICT教育を進めるための整備計画が必要である。	A	○計画どおりパソコン教室のパソコンは更新されている。授業等でICT機器を有効に活用し、授業や校務能率の向上に努めること。

4 評価項目ごとの評価 (A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった)

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

- 【担当課 自己評価】
- 【教育委員会 評価】
- 【外部評価委員会 評価】

評価者の別
学校 教育課 ○印

学校 教育課 ○印

1 本年の教育推進の重点

推進の重点 1 自立して物事に挑戦する態度を育成する

2 本年の教育推進の重点を具体化した事業

- ①発達段階に応じ、組織的・系統的なキャリア教育の充実
- ②体験活動を推進し、地域との関わりの中でのふるさと教育
- ③自主的に学ぶ意欲を育てる「そうあんの日」の設定
- ④外国語教育や国際理解教育の推進

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	<p>発達段階に応じ、教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実を図ります。</p> <p>○各教科等におけるコミュニケーション能力の育成</p> <p>○個性や適性を生かした進路指導の充実</p> <p>○「地域人材の活用」、「トライやる・ウィーク」を契機とした職業観や勤労観の育成</p>	B	<p>キャリア教育の計画は各校で概ね作成できた。また、2つの中学校区においては、小中一貫した計画を立案中である。キャリア教育の有効活用等が今後の課題である。</p> <p>○児童会・生徒会活動をはじめ、特別活動、清掃活動等、日常の体験を通じて基礎となる能力や態度を培うことができている。</p> <p>○児童生徒の活動を取り入れるとともに、コミュニケーションを大切にしながら、重視する姿勢は高まっているが、教員主導型の授業もまだまだあり、改善が必要である。</p> <p>○職業や進路先調べ、改善が必要である。</p> <p>○地域や適性を生かした進路指導が充実できている。</p> <p>○職業や進路先調べ、改善が必要である。</p> <p>○地域の様々な職業の方を招聘した講話やトライやる・ウィーク等により、職業観や勤労観の育成が図れた。</p>
2	<p>「環境体験事業」や「自然学校」等の体験活動を推進し、自然や社会、芸術文化に触れる機会を増やして、地域の人々等とのかかわりを通して「絆」を育むこと、感謝する意図を醸成し、ふるさと意識の醸成を図ります。</p> <p>○地域素材を生かした社会見学、地域の直接体験を通して豊かな心を育む(生き物探検、米作り、水生生物観察等)</p> <p>○伝統芸能の体験、鑑賞等を通じたふるさと意識の醸成</p> <p>○学校農園・学級菜園での栽培・収穫活動</p> <p>○外部の事業との連携、講師招聘による様々な体験学習</p>	A	<p>地域にある企業、公共機関、高等学校、各事業所、専門家等の協力を得ながら、地域素材を生かした見聞学等により、地域への関心を高めることができた。</p> <p>○地域の特色を生かした生き物探検・米作りなど、発達段階に応じた体験教育ができています。</p> <p>○音楽鑑賞、伝統芸能鑑賞・体験を通じて、ふるさと意識の醸成を図ることができています。</p> <p>○発達段階に応じた植物等を継続的に栽培し、収穫の喜びを共に分かち合う活動により、苦勞、感謝についての思いが深められました。</p> <p>○企業、公共機関、自治協議会等と連携した体験授業により本物とふれ合い、専門的な話が聞けた。</p> <p>○全体を通して、マンネリ化しない取組が求められます。</p>

評価項目	取組内容	達成状況	外部評価委員会による評価
1	<p>キャリア教育の計画は各校で概ね作成できた。また、2つの中学校区においては、小中一貫した計画を立案中である。キャリア教育の有効活用等が今後の課題である。</p> <p>○児童会・生徒会活動をはじめ、特別活動、清掃活動等、日常の体験を通じて基礎となる能力や態度を培うことができている。</p> <p>○児童生徒の活動を取り入れるとともに、コミュニケーションを大切にしながら、重視する姿勢は高まっているが、教員主導型の授業もまだまだあり、改善が必要である。</p> <p>○職業や進路先調べ、改善が必要である。</p> <p>○地域の様々な職業の方を招聘した講話やトライやる・ウィーク等により、職業観や勤労観の育成が図れた。</p>	B	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○教育活動全体を通じて発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の充実が図られている。キャリア教育の充実が今後の有効活用に向けていただきたい。</p>
2	<p>「環境体験事業」や「自然学校」等の体験活動を推進し、自然や社会、芸術文化に触れる機会を増やして、地域の人々等とのかかわりを通して「絆」を育むこと、感謝する意図を醸成し、ふるさと意識の醸成を図ります。</p> <p>○地域素材を生かした社会見学、地域の直接体験を通して豊かな心を育む(生き物探検、米作り、水生生物観察等)</p> <p>○伝統芸能の体験、鑑賞等を通じたふるさと意識の醸成</p> <p>○学校農園・学級菜園での栽培・収穫活動</p> <p>○外部の事業との連携、講師招聘による様々な体験学習</p>	A	<p>環境体験事業、自然学校、トライやる・ウィーク等の体験活動を通して、地域への関心を高める取組が実施されている。体験活動がマンネリ化しないよう常に問題意識を大事にしながらいよいよ進めていただきたい。更なる創意工夫と地域の協力や支援を得る取組に努めていただきたい。</p>

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

- 【担当課 自己評価】
 - 【教育委員会 評価】
 - 【外部評価委員会評価】
- 評価者の別
- 学校教育課 ○印

1 本年年度の教育推進の重点

推進の重点 1 自立して物事に挑戦する態度を育成する

2 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ①発達段階に応じ、組織的・系統的なキャリア教育の充実
- ②体験活動を推進し、地域との関わりの中でのふるさと教育
- ③自主的に学ぶ意欲を育てる「そうあんの日の日」の設定
- ④外国語教育や国際理解教育の推進

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
3	<p>家庭学習の手引き等により、学習の定着を図り、自ら課題を攻め、自主的に学ぶ意欲を育てるため、家庭の協力を得ながら「そうあんの日の日」を充実します。</p> <p>○小中連携における「家庭学習の手引き」の作成・実施 ○家庭と連携した「家庭学習の手引き」による学習習慣の定着 ○各学校の実態に応じた「そうあんの日の日」の工夫及び小中連携による「そうあんの日の日」の取組</p>	B	<p>○「家庭学習の手引き」により、発達段階に応じた学習の目安を示すことができたが、9年間で通じた手引きについてはまだ十分な状況ではなかった。</p> <p>○「家庭学習の手引き」を基に、家庭との連携を図り、学習習慣の定着が図られてきた。</p> <p>○「そうあんの日の日」を讀書、自主学習、お手伝い、ノーマルメディアアデー等と工夫することにより、自らの課題に応じて取り組む自主性が育ちつつある。また、家庭の協力を得ることができ、年々「そうあんの日の日」が定着し、小中連携で取り組む校区があり、意識が高まっている。就学前の子どもたちへ取組を進めていきたい。</p>
4	<p>小学校において外国語活動指導補助員、中学校においてはALTの派遣を継続して行い、英語をはじめとする外国語教育や国際理解教育を推進します。</p> <p>○外国語活動指導補助員の小学校への派遣 ○ALTの中学校への派遣 ○小学校の外国語活動と中学校の英語学習の円滑な接続</p>	B	<p>○外国語活動指導補助員の活用により、コミュニケーションを重視した活動が可能となり、英語に慣れ親しむことができた。また、教員が自信を持って指導を行うことができ、よくなってきている。外国語活動の教科化を踏まえ、教員の指導力の向上をより一層、図っていく必要がある。</p> <p>○英語教員とALTとの協働授業により、質の高い授業づくりが行われるようになってきた。</p> <p>○乗り入れ授業や交流授業により、小・中学校の外国語による円滑な接続を図ることができた。</p>

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
<p>○家庭学習の手引きにより、発達段階に応じた学習の目安の提示、家庭との連携を図り学習習慣の定着が図られた。</p> <p>○「そうあんの日の日」が定着し、読書、自主学習、お手伝い等自ら取り組む姿勢が形成された。また、地域と取り組むことでより一層意識が高まっている。</p>	B	<p>○「家庭学習の手引き」により、学習の目安が示され、家庭との連携や学習習慣の定着が図れている。今後有効活用に努められたい。</p> <p>○「そうあんの日の日」の取組を工夫することにより、自らの課題に応じた取組で自主性が育っている。取組の一層の定着を図られたい。</p>
<p>○外国語活動指導補助員やALTと児童生徒のコミュニケーションが図られ、英語に慣れ親しむことができた。英語授業は、楽しいものだと思わせることが必要。</p>	B	<p>○小学校での外国語活動にもALTの積極的な活用を図るとともに、教員の指導力のさらなる向上に努めていた。また、小学校低学年から発達段階に即した計画的な指導を進めていただいた。</p>

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
【教育委員会 評価】
【外部評価委員会評価】

評価者の別
印 外部評価委員会評価

学校教育課

- 本年の教育推進の重点
推進の重点②「生きる力」を育む教育を推進する
- 本年の推進の重点を具体化した事業
 - ①週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
 - ②「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実
 - ③「やぶつ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
 - ④教育活動全体を通じた命と人権を大切にすることの教育
 - ⑤社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進
 - ⑥身体を動かす時間の設定とカリキュラムの工夫による苦手種目の解消
 - ⑦家庭・地域と連携した生活習慣の確立
 - ⑧小・中学校が連携した教育の推進
 - ⑨インクルーシブ教育に向けた連携、交流、共同学習への取組

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
1	週4日以上学習タイムを充実し、読書の習慣の確立 基礎・基本の定着 朝読書による読書習慣の確立 学習形態の工夫等によるきめ細かな指導と学力向上	B	学習タイムの実施により、基礎・基本の定着に向けた取組を全ての学校で行うことができた。 全ての学校で朝読書に取り組み、読書の機会を設けるとともに、読書に親しむ習慣もついでできた。 子どもたちの実態に応じて、少人数指導、同室複数指導等、学習形態を工夫し、きめ細かな指導を行うことができた。特に中学校において、習熟度別学習の指導体制の工夫が課題である。	B	学習タイムの実施により全ての学校の学校で基礎・基本の定着に向けた取組ができた。また、読書の機会を設けたことにより読書に親しむ習慣もついでできた。 中学校においては、習熟の程度に心じた指導体制の工夫が課題である。	B
2	学校教育活動全般を通じて「ことばの力」の育成を図ることも、科学技術の基礎となる理科教育、情報教育、主体的に生きるための情報教育等に取り組む。	B	学習のめあての振り返り、個人・集団での話し合い活動を取り入れた授業の工夫 集会等において、意見や感想を発表する場面の設定によるコミュニケーション能力の向上 理論的な活動による実感を伴った理解への支援 ICT機器による視覚的理解への支援や発表の道具としての効果的活用	B	グループでの学習形態を取り入れられることにより自分の考えを的確に表現する力や判断力、表現力が深められた。 興味・関心を深めるため、実体験の場を持たせ、再認識された。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
【教育委員会 評価】
【外部評価委員会評価】

評価者の別
印
外部評価委員会評価

学校教育課

1 本年の教育推進の重点

推進の重点 2 「生きる力」を育む教育を推進する

2 本年の推進の重点を具体化した事業

- ①週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
- ②「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実
- ③「やぶつ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ④教育活動全体を通じた命と人権を大切にす心の教育
- ⑤社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進
- ⑥身体を動かす時間の設定とカリキュラムの工夫による苦手種目の解消
- ⑦家庭・地域と連携した生活習慣の確立
- ⑧小・中学校が連携した教育の推進
- ⑨インクルーシブ教育に向けた連携、交流、共同学習への取組

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課・評価・改善の方策	達成状況	外部評価委員会による評価		
「やぶつ子夢プラン」を充実する とともに、但馬聖人と呼んばれた「池田草庵」をはじめ先人に学ぶ教育を推進し、豊かな感性や郷土愛を育みます。	○「山の学校(米ノ山登山)」 「ふるさと教室(地区の伝統文化継承に向けた取組)」の充実 ○地域にゆかりのある先人に学ぶ教育の推進 ○地域の施設見学、自然環境・文化を生かした体験学習 ○地域の伝統行事、公民館事業への参加奨励	A	○「やぶつ子夢プラン」の実施により、協働する喜びや達成感、郷土愛の醸成が図れた。 ○冊子「草庵先生と青谿書院」「養父市まちの文化財」を活用する等、「池田草庵」を中心とする先人の教えを、学校教育や児童生徒の生活の中に生かす取組が図れた。 ○地域の様々な施設見学や自然環境・特産物、地域人材を学習に取り入れ、ふるさとの良さを生かした学習活動ができた。 ○行事への参加を通して、郷土愛が育まれているが、中学校の参加が低調との意見もあ いる。特に週休日については「子どもたちを地域に返す」という意識付けを教員に持たせる ことが必要である。 ○全体を通してマンネリ化しない取組が求め られる。	A	○「やぶつ子夢プラン」における交流、体験等により、ふるさとを再発見する機会が得られ、達成感があつた。 ○池田草庵をはじめ先人の教えが学校教育や児童生徒の日常生活の中に生かす取組が進んでいる。	○「やぶつ子夢プラン」における交流、体験等により、ふるさとを再発見する機会が得られ、達成感や郷土愛の醸成につながっている。 先人の教えが学校教育や児童生徒の日常生活の中に生かされるよう取組を求めめる。また、池田草庵本来の教えをきちんと伝える取組も必要である。	A

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
【教育委員会 評価】
【外部評価委員会 評価】

評価者の別
印
外部評価委員会評価

学校教育課

1. 本年年度の教育推進の重点

推進の重点 2 「生きる力」を育む教育を推進する

2. 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ①週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
- ②「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実
- ③「やぶつ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ④教育活動全体を通じた命と人権を大切にすることの教育
- ⑤社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進
- ⑥身体を動かす時間の設定とカリキュラムの工夫による苦手種目の解消
- ⑦家庭・地域と連携した生活習慣の確立
- ⑧小・中学校が連携した教育の推進
- ⑨インクルーシブ教育に向けた連携、交流、共同学習への取組

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	達成状況	外部評価委員会による評価
4	心の基礎となる学校教育活動全体を通じた道徳教育、生命の尊厳を基盤に自他の対する肯定的な態度と共生社会の実現に取り組む実践力を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> ○「兵庫版道徳教育副読本」等の年間指導計画への位置づけ、道徳参観日の設定 ○PTAと協働した人権講演会の開催 ○人権標語や人権ポスター、人権作文等の取組 ○縦割り班活動、集会等を活用した人間関係の醸成、ポラントイア等の体験活動の充実 ○教育活動全体におけるいじめ防止に向けた指導や啓発活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○「兵庫版道徳教育副読本」の活用時数を増やし、実践力を高める授業ができた。また、道徳の授業参観日の実施により、保護者への啓発も行うことができた。 ○PTAと協働して人権講演会を開催したり、人権週間、オープンスタールを活用しての啓発活動ができた。 ○人権標語やポスターづくり、作文の取組を通じた合理的な差別や偏見に気づかせ、解決するための態度を培った。 ○縦割り班活動、集会等を活用した人間関係の醸成を図る取組、清掃や募金等のポラントイア活動等、体験活動の中で道徳的実践力を高めた。 ○いじめの未然防止についで、児童会・生徒会を中心に全校生で取り組み、心豊かな子どもを育成に努めた。さらに子どもたちの主体的な取組を推進する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育副読本を活用した授業や道徳の授業参観日の実施により、保護者への啓発も行われている。 ○今後、人権標語、ポスター、作文の取組の継続が必要である。 ○命の尊さ、友達の大切さ等指導の在り方について研修を深め、児童生徒の道徳的実践力の向上に努めていただきたい。
			<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業参観日の実施により、保護者への啓発ができた。 ○人権教育においての人権標語、ポスター、作文の取組を通じて差別や偏見に気づかせ、解決に向けての態度を養わせた。 	B	外部評価委員会による評価

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
【教育委員会 評価】
【外部評価委員会 評価】

評価者の別
印 外部評価委員会評価

学校教育課

1 本年年度の教育推進の重点

推進の重点 2 「生きる力」を育む教育を推進する

2 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ① 週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
- ② 「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実
- ③ 「やぶっ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ④ 教育活動全体を通じた命と人権を大切にす心の教育
- ⑤ 社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進
- ⑥ 身体を動かす時間の設定とカリキュラムの工夫による苦手種目の解消
- ⑦ 家庭・地域と連携した生活習慣の確立
- ⑧ 小・中学校が連携した教育の推進
- ⑨ インクルーシブ教育に向けた連携、交流、共同学習への取組

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
5	社会福祉協議会等と連携して、思いやりや育てる心を育む教育を推進します。	B	○縦割り班による異年齢交流(清掃・運動会・遠足・集会) ○社会福祉協議会等と連携した福祉体験 ○児童会・生徒会の共同募金、エコキヤップ運動 ○ふれあい郵便や施設訪問による高齢者との交流 ○幼児センター、保育所、幼稚園との交流

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○縦割り班活動により、思いやりや協力することを学べた。 ○社会福祉協議会と連携した車椅子・アイマスク、手話等様々な福祉体験を通して不自由な方々の気持ちを感ずることができた。 ○老人施設への継続的な訪問やふれあい郵便等お年寄りとの交流ができた。 ○福祉施設との連携が課題である。	B	○縦割り班活動や社会福祉協議会と連携したたた取り、思いやりや老人施設への継続的な訪問やふれあい郵便等高齢者との交流も行われている。今後とも継続した取組が必要である。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
【教育委員会 評価】
【外部評価委員会評価】

評価者の別
印

印
 学校教育課

1 本年年度の教育推進の重点

推進の重点 2 「生きる力」を育む教育を推進する

2 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ①週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
- ②「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実
- ③「やぶつ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ④教育活動全体を通じた命と人権を大切にす心の教育
- ⑤社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進
- ⑥身体を動かす時間との設定とカリキュラムの工夫による苦手種目の解消
- ⑦家庭・地域と連携した生活習慣の確立
- ⑧小・中学校が連携した教育の推進
- ⑨インクルーシブ教育に向けた連携、交流、共同学習への取組

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
6	体力テスト等の結果を踏まえて遊ぶ時間を設定したり、健康体育の工夫により、苦手種目の解消に努めます。	B	○「運動プログラム2009」の活用 ○体力テストの実施と結果分析による指導の工夫改善 ○季節ごとのチャレンジタイムの設定 ○身体を動かしやすい環境の整備
7	「親子ではぐくむ『5つの生活習慣』」を推奨し、家庭や地域と連携して、生活習慣の確立を図ります。	B	○学校便り、学級便り、保健便り等を通じた周知・啓発を図った。 ○PTAとの連携による実践的取組期間の設定等、協力して実施できた。 ○生活アンケートによる実態把握により、子どもたち様子を学校評議員、民生児童委員等、関係機関と共有し、地域ぐるみで取り組むことしたい。

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○「運動プログラム2009」の活用により、運動の日常化及び意義を学ぶことができた。 ○体力テストの結果分析を行い、苦手種目の解消に向けて指導法の改善が行われた。	B	○運動プログラムを取り入れ、運動の日常化が図られている。 「体力テスト」の結果分析の活用により、苦手種目の解消に向けた指導の方法や内容の改善が行われている。今後も継続した取組が必要である。	B
○学校だより、学級だよりを家庭や地域に発信することで、周知・啓発が図られた。	B	○学校便り、学級便り、保健便り等を通じた周知・啓発が図られているが、今後も家庭やPTA、学校評議員、民生児童委員等、関係機関と協力し、地域ぐるみで取り組む必要がある。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課自己評価】
【教育委員会 評価】
印 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 学校教育課

1. 本年年度の教育推進の重点

推進の重点 2 「生きる力」を育む教育を推進する

2. 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ①週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
- ②「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実
- ③「やぶっ子夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ④教育活動全体を通じた命と人権を大切にすることの教育
- ⑤社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進
- ⑥身体を動かす時間の設定とカリキュラムの工夫による苦手種目の解消
- ⑦家庭・地域と連携した生活習慣の確立
- ⑧小・中学校が連携した教育の推進
- ⑨インクルーシブ教育に向けた連携、交流、共同学習への取組

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
8 中学校区ごとの各部会(学習・保健・生活等)による連絡会議を定期的に開催し、小・中学校が連携した教育を推進します。	○保・幼・小・中学校の連携による保育・授業参観の実施 ○保・幼・小・中学校の交流行事の推進 ○小中連携事業の見直しと企画・立案の積極的推進による各部会の連携と充実 ○中学校教員による乗り入れ授業 ○小中一貫教育調査研究事業による先行モデル校区での実践	B	○保・幼・小・中連携により、教職員の交流の機会が増加し、指導方法の改善、スムーズな接続に向けた意識を高めることができた。 ○保・幼・小・中連携による交流行事を推進し、小1プロブレム、中1ギャップの解消に引き続き努めることが求められる。 ○中学校区ごとの小中連絡会議(学習・保健・生活等)が充実してきている。 ○中学校教員による乗り入れ授業や、小学生が中学校を訪問しての授業等の体験が、中1ギャップ解消につながっている。 ○養父中学校区、関宮中学校区では、先行モデル校区として、教育目標、目指す子ども像の共有化を図り、具体的な取組を進めている。保護者や地域の理解を深め、体制づくりを強化する必要がある。

4. 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	達成状況	外部評価委員会による評価
自己点検・評価委員会による評価	B	○小中一貫教育の推進は、小中学校と密に連携を図り、諸課題に対応しながら各学校の特色を生かした取組が実施されるよう期待する。
外部評価委員会による評価	B	○保・幼・小・中連携により、教職員の交流、指導方法の改善等が図れた。 ○養父中学校区、関宮中学校区では、先行モデル校区として、小中一貫教育調査研究事業を行い教育目標等の具体的な取組が進められている。今後は、保護者や地域の理解が必要不可欠となる。

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

- 【担当課自己評価】
- 【教育委員会 評価】
- 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 印
 印

学校教育課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 2 「生きる力」を育む教育を推進する

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ① 週4日以上学習タイムの充実と、基礎・基本の確実な定着
- ② 「ことばの力」を向上させるための言語活動の充実
- ③ 「やぶつ夢プラン」の充実と先人に学ぶ教育の推進
- ④ 教育活動全体を通じた命と人権を大切にす心の教育
- ⑤ 社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進
- ⑥ 身体を動かす時間の設定とカリキュラムの工夫による苦手種目の解消
- ⑦ 家庭・地域と連携した生活習慣の確立
- ⑧ 小・中学校が連携した教育の推進
- ⑨ インクルーシブ教育に向けた連携、交流、共同学習への取組

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかつた D目標が達成できなかつた)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
9 インクルーシブ教育システムの構築を見据え、特別な支援が必要な子どもについては、「個別の指導計画」等の活用による早期からの一環した支援、共に学ぶことで豊かな人間性を育む学習及び共同学習に組み込みます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内委員会の定期開催(個別の教育支援計画、指導計画作成と記録) ○ 特別な支援的支援 ○ 通級指導による個に応じた指導 ○ 関係機関との連携による個に応じた対応(ケース会議の開催) ○ スクールカウンセラーによる相談体制と校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の教育支援計画・指導計画に基づいた個に応じた指導の充実や、校内委員会の定期的な開催により、全教職員で子どもたちの生活及び学習の様子の共通理解を図っている。 ○ 特別支援学校との連携や、講師を招いた研修を指導に生かしている。 ○ 学校生活支援教員による通級指導を活用し、個に応じた指導の充実を図った。対象児童生徒が増加しており、通級指導が困難な状態にきている。県教委に埋員を申請しているところである。 ○ 子ども育成課、専門機関等と連携し、個の実態を把握するとともに、指導の充実について相談して進められた。 ○ スクールカウンセラーを有効に活用し、教育相談を充実させることができた。より一層、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインへの構築等、特別支援教育に係る教職員の意識や指導技術を高めていく必要がある。

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかつた D目標が達成できなかつた)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた指導の充実や校内委員会の定期的な開催により、全教職員で子どもたちの生活、学習の様子の共通理解が図られている。 ○ 子ども育成課、専門機関等と連携し、個の実態を把握するとともに、指導のあり方について情報共有を図り相談や調整をして進められている。 ○ スクールカウンセラーの有効な活用により、教育相談の充実が進められている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた指導の充実が図られ、全教職員で児童・生徒の生活、学習の様子の共通理解が進んでいる。 ○ 今後とも関係課、専門機関等とも連携し、教育相談の充実に向けて進んでいきたい。 	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

○【担当課 自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会評価】

評価者の別
 ○印
 学校教育課

1. 本年年度の教育推進の重点
 推進の重点 3. 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する

2. 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ①安心安全に学べる学習環境づくりの整備
- ②地域と連携した安心安全な通学路の確保
- ③防災教育、地域との連携による地域の体制づくり
- ④情報発信、地域との連携による未然防止・早期発見・早期対応
- ⑤いじめや不登校、児童虐待等の未然防止、食育の形成
- ⑥教育活動全体を通じた食育の推進による食育の形成
- ⑦通信機器を用いたトラブル未然防止についての研修及び啓発活動

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかつた D目標が達成できなかつた)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1 学校施設の安全管理やICT環境の整備などの学習環境の整備・充実を図るとともに、様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する教育の機会を確保するための教育支援等に取り組めます。	○学校施設の安全点検の実施 ○ICTの環境整備 ○教育支援委員会の開催	B	○定期的な施設・設備の安全点検を複数職員で実施し、不備については早急に対処できた。 ○ICT機器は定期的に更新している。ICT機器の充実に加え、授業で活用する教材の整備も進歩に追いつけない状況もある。 ○前回の就学指導委員会から「教育支援委員会に組織改編し、特別な支援が必要な子どもたちへの指導、支援体制を整備した。」
2 「養父市通学路交通安全プログラム」に基づき、学校・家庭・地域と関係機関が連携して、子どもたちが安全に通学できるように通学路の安全確保に努めます。	○教職員による交通立ち番、安全指導、下校指導 ○防犯グループと連携した登下校指導 ○通学路安全点検の実施 ○養父市通学路交通安全プログラム策定	B	○定期的な立ち番指導により、歩行・走行マナー指導、安全指導、通学路の安全点検に取り組んでいる。 ○地域の防犯グループ、駐在所、老人クラブ等と連携した登下校指導とPTAによる危険箇所のマップ作りや「子ども110番の家」の確認が進んでいる。 ○PTAと連携し、通学路の安全確保や未整備箇所の点検等を実施した。 ○市建設課、警察、国交省、県土木事務所等の関係諸機関と連携し交通安全プログラムを策定した。

4. 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかつた D目標が達成できなかつた)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○学校施設の定期的な安全点検、不備については早急な対応ができてい る。 ○ICT機器は定期的に更新している。機器の充実、教材の整備も進んでいるが機器の有効な活用を図る必要がある。	B	○学校施設の定期的な安全点検や修繕については早急な対応ができてい る。 ○ICT機器も定期的に更新されてい る。ICT機器を活用した授業研究や 校務効率の向上に努めること。	B
○定期的な立ち番指導、地域の防犯グループ、駐在所等により、歩行・走行マナー指導、安全指導、通学路の安全点検に取り組んでいる。 ○PTAと連携し、通学路の安全確保や未整備箇所の点検等を実施及び建設課、警察、国県道路関係者で交通安全プログラムの作成がなされた。	B	○教員の定期的な立ち番指導、防犯グループ、駐在所等により安全指導と通学路点検に取り組んでいる。また関係行政機関と連携し、児童生徒の安心安全の確保に努めていただきたい。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

○【担当課 自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会評価】
 評価者の別
 学校教育課 ○印

1. 本年度の教育推進の重点

推進の重点 3 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する

2. 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ①安心安全に学べる学習環境づくりの整備
- ②地域と連携した安心安全な通学路の確保
- ③防災教育による適切に判断し、主体的に行動する力の育成
- ④情報発信、地域との連携による地域ぐるみの体制づくり
- ⑤いじめや不登校、児童虐待等の未然防止、早期発見・早期対応
- ⑥教育活動全体を通じた食育の推進による食習慣の形成
- ⑦通信機器を用いたトラブル未然防止についての研修及び啓発活動

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4. 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	評価内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	外部評価委員会による評価	達成状況
3	<p>「学校防災マニュアル」に基づいた防災訓練を実施するなどして、かけがえのない生命を守るため、災害発生時に適切に判断し、主体的に行動する力を育成する防災教育を行います。</p> <p>○警報発令時の保護者への周知やその場合の確実な連絡 ○交通安全教室の開催(警察署との連携) ○不審者対応訓練、救急訓練、心肺蘇生法講習会 ○警報発令時の配膳体制確立と避難所運営に係る担当者会議の開催 ○防災マニュアルに基づく避難訓練、引渡し訓練の実施 ○「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」等、追悼集会の開催</p>	B	<p>担当課評価・改善の方策</p> <p>○警報発令時の対応を事前に保護者へ周知し、その場合、ケープル放送や電話で、保護者へ確実に連絡を行うことができた。 ○警察官を招聘しての交通安全教室では、自分の命は自分で守る意識や態度の育成が図られており、継続した取組で定着を図りたい。 ○警察署や消防署と連携した研修や訓練を通して、教職員の危機管理能力、危険察知能力、緊急時対応能力が高まった。 ○市防災教育連絡推進会議をはじめ、地域と連携した防災、警報発令時・災害発生時の対応について、常に実践できるようにしておく必要がある。 ○全ての学校において、様々な形態での避難訓練、保護者への引き渡し訓練を定期的に実施している。ただし、地域の防災訓練への参加が少ない地区がある。 ○追悼集会を実施し、防災意識の高揚を図った。</p>	<p>自己点検・評価委員会による評価</p> <p>○すべての学校において「学校防災マニュアル」に基づいた防災訓練がなされている。</p>	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○すべての学校において「学校防災マニュアル」に基づいた防災訓練が実施されている。今後も定期的に防災訓練を実施し、防災教育の充実を図ること。</p>	B
4	<p>学校からの積極的な情報発信を踏まえ、地域と連携し、地域ぐるみの体制づくりを進めます。</p> <p>○オープンスクールの定期的開催 ○学校評議委員会及び学校関係者 ○評価結果の実施と公開(保護者アンケート、自己評価、学校関係者評価) ○民生児童委員との懇談 ○ホームページ、学校だより、学級通信、保健 ○地域の行事に参加し、教育活動の成果を披露 ○PDCAサイクルを生かした学校経営</p>	B	<p>担当課評価・改善の方策</p> <p>○オープンスクールを定期的に開催し、授業参観、講演会、学校行事等を含めて、保護者・地域の方の理解と協力を得ている。 ○学校評議委員会、学校関係者評議会を定期的に開催し、学校の状況を伝えるとともに、学校経営についての意見を伺った。 ○保護者アンケートや自己評価、学校関係者評価を学校・学級経営に生かしている。 ○民生児童委員との懇談で出た意見を教育活動に反映させた。 ○ホームページ、学校だより、学級通信、保健などにより教育活動を広く紹介し、周知を図ることができた。 ○地域の行事に子どもたちが参加し、演奏、ボランティア活動等、日頃の成果を披露できた。 ○PDCAサイクルの機能を生かし、教育活動について再点検する必要がある。</p>	<p>自己点検・評価委員会による評価</p> <p>○オープンスクールの定期的開催により、授業参観、学校行事等地域の理解と協力が得られた。 ○ホームページ、学校だより、学級通信等による教育活動の周知がなされている。</p>	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○オープンスクールの定期的開催により、授業参観、学校行事等地域の理解と協力が得られている。また多くの地域住民が学校を訪れる機会となっている。今後も、地域に開かれた学校づくりに取り組みむこと。</p>	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会評価】
 評価者の別
 ○印
 学校教育課

1. 本年年度の教育推進の重点
 推進の重点 ③ 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する

2. 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ① 安心安全に学べる学習環境づくりの整備
- ② 地域と連携した安心安全な通学路の確保
- ③ 防災教育による適切に判断し、主体的に行動する力の育成
- ④ 情報発信、地域との連携による地域ぐるみの体制づくり
- ⑤ いじめや不登校、児童虐待等の未然防止、早期発見・早期対応
- ⑥ 教育活動全体を通じた食育の推進による食習慣の形成
- ⑦ 通信機器を用いたトラブル未然防止についての研修及び啓発活動

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	担当課	担当課評価・改善の方策	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
5	養父市および学校いじめ防止基本方針に基づき、家庭や地域、関係機関との連携を密にしている。また、いじめ、不登校、児童虐待等の問題に対しても、その兆候が見られた際には迅速かつ適切な対応を行います。	校内指導体制の充実 ○生活アンケート等の調査を基にした早期発見、早期対応の充実 ○スクールカウンセラーによる教育相談、観察指導 ○学習連絡会の開催 ○「子どもを語る会」の継続実施による未然防止と早期解決	「いじめ防止基本方針」や「いじめ対応マニュアル」による指導体制を充実させ、全教職員で未然防止・早期発見・早期対応に努めている。 ○生活アンケートやいじめアンケート等の調査に基づき、早期発見、早期対応に努めている。 ○スクールカウンセラー等の調査内容や取り方等について工夫が必要である。 ○関係機関や保護者との連携を密にし、信頼関係の構築による問題行動の未然防止に努めている。また、気になる児童生徒の様子を常に情報交換することなどで、全教職員が共通理解でき、対応にあたることなどができた。 ○学習連絡会の開催により、子どもたちの情報交換、地域との連携のもと、未然防止や早期対応に努めている。 ○いじめや不登校の未然防止について懸命に取り組んでいるが、気になる状況は生じている。一層の取組の強化が必要である。	B	自己点検・評価委員会による評価 ○「いじめ防止基本方針」、「いじめ対応マニュアル」による指導体制の充実、未然防止、早期解決に努められている。 ○関係機関や保護者との連携を密にし、気になる児童生徒の情報交換により、共通理解と対応に当たられている。また、いじめ、不登校の未然防止の一層の取組強化が望まれる。	B
6	教育活動全体で食育を推進します。また、新学食センター等関係機関の協力を得ながら、地産地消を意識した安全、安心でおいしい給食を提供し、望ましい食習慣の形成に努めます。	栄養教諭(栄養職員)による食育指導 ○給食センターにおける地産地消の推進とアレルギー対応 ○学校給食を活用した食育実践(食材の皮むき体験、給食日より) ○家庭への定期的または機会を捉えた啓発活動(学校日より、休日も親子クッキングスクール) ○「子どもが作る弁当の日」の取組 ○食育指定校を活用した取組	栄養教諭による食育指導、体験活動が回数・内容ともに充実した。また、食育担当教員を中核としながら、学校全体で健全な食生活を実践できる力を育成している。 ○地産産物を多用する「やぶぶさメニュー」や「学校給食甲子園」の実施により、地産地消を意識する児童生徒が増え、親しみを持っていていいる。また、アレルギーのある子どもたちへも適切に対応している。 ○学校給食を生かした教材として、食に関わる体験活動、食育の授業、給食指導等、各教科等も関連づけながら実践できた。 ○学校日より、保護者への給食指導等の内容を含め、望ましい食習慣、栄養指導等の内容を盛り込み、保護者への啓発活動を行った。 ○親子クッキングスクールの実施や児童生徒が自分で弁当を作る日の取組により、食への喜びや感謝を感じられるようになってきている。今後この取組の充実を図っていききたい。	A	外部評価委員会による評価 ○栄養教諭による食育指導、体験活動の充実、地産地消の推進、アレルギー対応等、適切に対応されている。今後も食育の充実を図ること。	A

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

○【担当課 自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会 評価】

評価者の別
 ○印

学校教育課

1. 本年年度の教育推進の重点

推進の重点 3 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する

2. 本年年度の推進の重点を具体化した事業

- ①安心安全に学べる学習環境づくりの整備
- ②地域と連携した安心安全な通学路の確保
- ③防災教育による適切に判断し、主体的に行動する力の育成
- ④情報発信、地域との連携による地域の体制づくり
- ⑤いじめや不登校、児童虐待等の未然防止、早期発見・早期対応
- ⑥教育活動全体を通じた食育の推進による食習慣の形成
- ⑦通信機器を用いたトラブル未然防止についての研修及び啓発活動

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかつた D目標が達成できなかつた)

4. 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかつた D目標が達成できなかつた)

評価項目	取組内容	担当課評価・改善の方策	達成状況	
7	<p>スマートフォンやSNS等の利用によるトラブルを防止するため、関連する新しい情報を家庭に発信し保護者との情報共有を図ります。また、PTAと連携しての情報モラル研修や家庭におけるルールづくり、フィルタリングの利用促進に努めます。</p>	<p>○道徳の時間等での発達段階に即したマナーやエチケットの指導 ○アンケートによる実態把握と指導の充実 ○産官学連携「ケータイ教室」を市内全校で開催 ○生徒会を中心とした生徒によるルールづくりの推進 ○学校だより、学級通信等を通じて保護者へルールの周知と啓発 ○情報モラルについてのPTAとの合同研修会の開催</p>	<p>○スマホ等のネットトラブルへの対応に関する発達段階に応じた指導、アンケートによる実態把握、県警・県立大学等による「ケータイ」教室の全校実施において注意喚起、正しい使用方法を中心に進め、各中学校の生徒会を中心に進め、各校でルールづくりが進んでいる。</p>	A
		<p>○スマホ等の情報通信機器利用者が増加しており、ネットによるトラブルが発生していることから、発達段階に応じた指導を進めることのできた。 ○アンケートによる子どもたちの実態把握を行い、その実態に応じた指導内容、指導方法の充実を図った。 ○XDBI、県警、県立大学が連携した「ケータイ教室」を9月末に市内全校で実施し、子どもたちの注意を喚起し、正しい使用方法を指導した。 ○子どもたちによるルールづくりを中学校の生徒会を中心に進め、各校でルールが策定された。 ○学校だより、学級通信等で家庭への継続した啓発と協力が必要であり、各家庭でのルールづくり等を啓発した学校もあった。 ○PTAと連携して、専門的な講師を招聘しての研修会を実施する学校が多かった。より充実した指導を継続する必要がある。</p>	<p>外部評価委員会による評価 ○県警・県立大学等による「ケータイ」教室を全校実施し、ネットトラブルへの注意喚起と正しい使用方法の指導が行われているが、今後も一層情報リテラシーの充実を図る必要がある。</p>	A

平成28年度(平成27年度対象) 養父子教育委員会評価調査

○【担当課 自己評価】
 ○【教育委員会 評価】
 ○【外部評価委員会 評価】

評定者の別
 ○印
 学校給食センター

1 本年年度の教育推進の重点
 推進の重点

3 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する

2 本年年度の推進の重点を具体化した事業

①教育活動全体を通じた食育の推進による食習慣の形成、給食センターの運営

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	<p>教育活動全体で食育を推進します。また、新学校給食センター等関係機関の協力を得ながら、地産地消を意識した安全・安心でおいしい給食を提供し、望ましい食習慣の形成に努めます。</p>	A	<p>栄養教諭(栄養職員)による食育指導 ○給食センターにおける地産地消の推進とアレルギー対応 ○学校給食を活用した食育実践(食材の皮むき体験、給食だよりの発行、学校給食甲子園の実施等による啓発) ○家庭への定期的または機会を捉えた啓発活動(学校だよりの発行、食育だより、夏休み親子クッキングスクールの開催) ○「子どもが作る弁当の日」の取組み ○食育指定校を活用した取組み</p>
2	<p>学校給食センターの管理・運営については、効率性や衛生面での安全性を確保しつつ、安定的な事業推進に努めます。</p>	B	<p>年間を通じて電気使用量の変化を把握すること、季節ごとの変化に対応した管理が定型化されてきた。 ○突発的な不測の事態にできるよう、職員間及び業者等との連携を進める。 ○異物混入マニュアルの見直しや、ヒヤリハットの活用により危機管理体制の確保を図る。 ○ストレスチェック制度の運用・活用等により風通しの良い職場づくりを進める。 ○細かな情報収集により安全で安心な食料調達に努めた。</p>

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<p>○食育指導、地産産物を活用する「学校給食甲子園」の実施、アレルギーアレルギー対応等適切になされている。 ○学校だよりの発行、給食だよりの発行により食育についての保護者への啓発、理解に努めている。</p>	A	<p>○アレルギー対応については今後とも家庭や学校と連携、情報共有を図り事故のないよう努めていただきたい。 ○今後も学校だよりの発行、給食だよりの発行により食育についての保護者への啓発、理解に努めていただきたい。</p>	A
<p>○電気使用量をはじめ施設運営費の適正管理に努めるとともに異物混入対策の強化により危機管理体制の確保が図られた。 ○風通しの良い職場づくりが進められている。</p>	B	<p>○施設管理には努力されている。異物混入対策の強化も図られている。 ○良好な職場環境の維持に努めていただきたい。</p>	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課自己評価】
【教育委員会評価】
【外部評価委員会評価】
 評価者の別
印
学校教育課

1 本年年度の教育推進の重点

推進の重点	4 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める
2 本年年度の推進の重点を具体化した事業	①校内研修の充実による実践的指導力の向上 ②教職員が互いに個性や能力を発揮できる職場づくり ③業務改善による子ども達とふれ合う時間の確保と心通い合う指導 ④他校種間教員の連携によるさまざまな子ども像の共有

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	外部評価委員会による評価	達成状況	
1	<p>積極的に授業を公開し、教員相互が参観する中で授業力を高め、校外研修にも積極的に参加し、専門性の向上に努めます。</p> <p>効率的・組織的な学校運営に努めるとともに、教職員が互いに個性や能力を発揮できる職場づくりに努めます。OJTによる若手教員の資質の向上を図ります。</p>	<p>授業の相互参観、研究授業、授業公開による指導力の向上</p> <p>原教委や市教育研修所主催の研修会への積極的参加と伝達講習の実施</p> <p>報告、連絡、相談、相談、確認の徹底による共通理解と風通しのよい職場作り</p> <p>学校業務改善による働きやすい職場作り</p> <p>教職員の専門性が活かせる分掌配置</p> <p>主幹教諭や経験豊富な教職員が豊富な教職員を推進</p>	B	<p>語活動の充実を柱に校内研修を実施し、授業力向上につなげた。また、積極的に授業公開する学校が増え、他校の授業研究に参加する教員も増えた。</p> <p>県教委の道徳スキルアップ事業、サイエンス・トライやる事業での研修、市教委の夏期研修講座、先人教育研修、若年教員研修を開催し、積極的な参加が見られた。</p>	<p>言語活動の充実を柱に校内研修を実施し、授業力向上につなげた。また、積極的に授業公開する学校が増え、他校の授業研究に参加する教員も増えた。</p> <p>若年教員研修を行い資質の向上を図られた。</p>	A	A
2	<p>報告、連絡、相談、相談、確認の徹底による共通理解と風通しのよい職場作り</p> <p>学校業務改善による働きやすい職場作り</p> <p>教職員の専門性が活かせる分掌配置</p> <p>主幹教諭や経験豊富な教職員が豊富な教職員を推進</p>	B	<p>風通しの良い職場づくりが進むとともに、学校ルーブルブックの活用による業務の効率化が進んでいる。</p> <p>定期退勤日の実施が進み時間的余裕、精神的余裕が見出し、児童生徒と向き合う時間と心の通い合う指導につなげられている。</p> <p>主幹教諭や経験豊富な教職員を中心に、組織的に機能する分掌配置を推進した。</p> <p>今後、若手教職員の増加が予想されることから、授業力と生徒指導力を高めるための研修を工夫して実施する必要がある。また、若年教員研修について、研修内容の工夫・改善等、充実を図る必要がある。</p>	<p>風通しの良い職場づくり、業務の効率化が進んでいる。</p> <p>若手教員の増加に伴い授業力と生徒指導力を養う研修を工夫する必要がある。</p>	B	B	

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
【教育委員会 評価】
【外部評価委員会 評価】

評価者の別
印
 学校教育課

1 本年の教育推進の重点

推進の重点	4 教職員としての専門性と実践的指導力の向上に努める
2 本年の推進の重点を具体化した事業	
	①校内研修の充実による実践的指導力の向上 ②教職員が互いに個性や能力を発揮できる職場づくり ③業務改善による子ども達とふれ合う時間の確保と心通い合う指導 ④他校種間教員の連携によるめざす子ども像の共有

3 自己評価結果 (A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A 目標が達成できた B 目標が概ね達成できた C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	外部評価委員会による評価	達成状況
3	業務改善により子ども達とふれ合う時間を確保し、愛情と責任感を持った心の通い合う指導、学級づくりに努めます。	○定時退勤日、ノー会議デー、ノー部活デーの推進 ○養父市勤務時間の適正化推進 ○会議の開催による意見交換の向上 ○子どものためとふれあう時間の確保	B	○市内全ての学校を水曜日を定時退勤日とし、ノー会議デー、ノー部活デーを設定し、教職員のワークライフバランスの推進が進んだ。 ○市勤務時間の適正化推進委員会を定期的に開催し、業務改善における情報交換や方策等について検討している。 ○職員会議のペーパーレス化、指導要録の電子化等、業務効率を上げる工夫を各校で推進している。 ○業務改善により、子ども達と向き合う時間、語らう時間の確保に努めるとともに、心通い合う指導、個に応じた指導の時間を充ててきた。	○水曜日の定時退勤日、ノー会議・部活デーは定着してきた。業務改善により、子ども達と向き合う時間の確保による、心の通い合う指導に努めていただきたい。	B
4	保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実 ○保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実 ○保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実 ○保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実	○保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実 ○保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実 ○保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実 ○保・幼・小・中・中学校の連携による保育・授業の充実	B	○保・幼・小・中・中学校の連携による、教職員の交流、指導方法の改善が進んでいる。 ○養父中・小・中・中学校区として、小中一貫教育調査研究事業を行い、小中一貫教育の具体的な取組が進められている。今後は、保護者や地域の理解が必要不可欠となる。	○保・幼・小・中・中学校の連携により、教職員の交流、指導方法の改善等が図れている。 ○養父中・小・中・中学校区として、小中一貫教育調査研究事業の取組が進められているが、保護者や地域の理解を得ながら進めたい。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調書

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

ことも育成課

1. 本年度の教育推進の重点

推進の重点
 幼児教育
 1 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る

2. 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ①保健師、臨床心理士、家庭相談員などの相談体制の充実と巡回相談の実施
- ②保幼小の連携体制の充実
- ③幼児教育指導主事の配置

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	・年齢に応じた生活点検表、連絡帳の活用、園だより、保健だよりなどで、家庭での様子を把握し、連携を行うこととともにも基本的生活習慣の重要性の啓発に努める。 ・個別相談を実施し、家庭における生活状況の把握に努める。	B	・生活点検表の活用やお便りにより生活習慣の大切さを感してもらう取組ができた。 ・個別相談を実施し、家庭における生活状況の把握に努めることができた。 ・家庭により意識の違いがあるため、今以上に保護者とのコミュニケーションを図るなどにより連携していく必要がある。
2	・指導計画や個人記録、経過記録を作成するなど、個々の課題に応じた関わりを計画的に進める。 ・専門技術を高めるための研修会への参加や園内研修の充実を図るなど、職員の資質向上に努める。 ・すこやか相談・巡回相談の活用を積極的に進める。 ・定期的な園内研修を実施することととも、職員が共通理解を持ち対応にあたることととも、職員間の連携を深める。	A	・個々の課題に応じた計画を立て教育・保育を進めることができた。 ・積極的に研修会へ参加したり、園内研修の実施により職員の技術の向上、共通理解を深める取組みができた。 ・ことも育成課と連携し、すこやか相談(14回)巡回相談(40回)を積極的に進め、子どもの理解と支援に努めた。
3	・個別相談や巡回相談の利用、市健康課や特別支援学校またはエスフォルタこじか等関係機関との連携など、それぞれの子どもや家庭に応じた支援を進める。 ・各種研修会に参加し、各支援の方法を学び、支援の方法を学び、園内研修で共通理解を深める。	B	・ことも育成課の専門職員の指導により、関係機関と連携し、それぞれの子どもにも応じた支援(教育・保育)をすすめることができた。 ・「そだれん」研修会をはじめとして各種研修会に参加するなどにより支援の方法を学ぶとともに、園内研修により共通理解を深める取組みを行った。 ・サポートファイルの活用方法について今後更に検討が必要である(ことも育成課)。

4. 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○保護者に基本的生活習慣の重要性を説き、その意識化を図られた。また、個別相談の実施により家庭における生活状況の把握ができた。 ○保護者間の意識の違いをコミュニケーションを図ることで解消された。	B	○保護者との個別相談の実施により家庭の生活状況の把握や基本的生活習慣の指導まで行われている。今後も保護者との意思疎通に努めていただきたい。	B
○個々の課題に応じた計画を立て教育・保育を進めている。また、職員の積極的な研修参加により技術の向上、共通理解を深められている。 ○積極的にすこやか相談、巡回相談を行い、子どもへの理解と支援ができた。	A	○子どもの個々の課題に応じた計画が立てられ、教育・保育を進められている。職員も積極的な研修会に参加し、資質の向上と共通理解を深めている。 保護者に対し積極的に相談活動を実施し、子どもの理解と支援を行っている。今後とも保護者や子どもにも寄り添った保育に努めていただきたい。	A
○ことも育成課の専門職員の指導により、関係機関と連携し、それぞれの子どもにも応じた支援(教育・保育)を行っている。 ○園内研修の充実が図られているがサポートファイルの活用方法について検討が必要である。	B	○ことも育成課の専門職員の指導により、関係機関と連携し、子どもにも応じた支援(教育・保育)が行われている。 ○サポートファイルの情報を関係機関や職員で共有し検討する機会を定期的に待ち、有効活用していただきたい。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調書

評価者の別	○ 担当課 自己評価
	○ 教育委員会 評価
	○ 外部評価委員会 評価
子ども育成課	○ 印

1. 本年度の教育推進の重点

推進の重点
 幼児教育
 1 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る

2. 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ①保健師、臨床心理士、家庭相談員などの相談体制の充実と巡回相談の実施
- ②保幼小の連携体制の充実
- ③幼児教育指導主事の配置

3. 自己評価結果 (A目標が達成できた A目標が達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
4	保・幼・小・中連携を積極的に進め、乳幼児期から中学校までの滑らかな接続を図ります。 ・ 幼児教育指導主事を配置し、保・幼・小の連携強化を図るとともに支援を必要とする子どもへの就学支援を行う。 ・ 5歳児発達相談を実施する。	B	・ 交流会や保育参観の実施などにより学校との連携を図ることができた。 ・ 指導主事による園や担任の指導や県の新任教育補助教員により道質の向上を図った。 ・ 5歳児発達相談を対象家庭に実施することができた。

4. 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○ 交流会や保育参観の実施により学校との連携が図られている。 ○ 幼児教育指導主事による園、担任の指導を行い資質の向上に努めている。	B	○ 学校と交流会や保育参観を実施し、小学校との連携も図られている。幼児教育指導主事による園、担任の指導を行い資質の向上が図られている。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課自己評価】
 【教育委員会評価】
 【外部評価委員会評価】

評定者の別
 印

こども育成課

- 本年度の教育推進の重点
 幼児教育
 2 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培い「生きる力」の基礎を育む
- 本年度の推進の重点を具体化した事業
 ①年齢に応じた指導計画に基づく保育(教育)の推進
 ②各種研修会の実施による自己研鑽と資質・技術の向上
 ③運動遊びプログラムに基づく体力づくり
- 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
1	自然の中での遊びや動植物とのふれあいを通して、開放感や充実感、達成感を味わうことで乳幼児の豊かな感性を培います。	・園外保育や毎日の散歩等を通して身近な自然や生き物への興味関心を育てる。また、季節の野菜作りを通して収穫の喜びを味わう。 ・文化祭や運動会、祭り、自治協議会の行事などにも積極的に参加し、地域とのふれあいを深める。	・自園の畑で野菜や花を栽培することにより、自然や生き物への興味や関心を育てる取り組みができた。 ・地域の行事にも積極的に参加し、地域との交流を深めることができた。	A	A	A
2	協同する経験(幼児同士が共通の目的をもち、工夫したり協力したりする経験)を通して、人とかがわかる力やことばの力の育成を図ります。	・運動会や発表会などの行事への取り組みの中で、一つの目的に向かって工夫したりする経験や遊びを通して、協同する経験や人とのかわり合いの育成に努める。 ・日々の生活や遊びの中で、子どもたちのやり取りや経験している協同の場面を見逃さず、必要に応じて援助していく。	・力をあわせ協力することの大切さ、やり遂げた達成感を味わうことで、自己肯定感がつながり、人との関わりに自信が持てるようになった。 ・周りの人たちと関わり、絵本体験、自然体験などにより、ことばの力が着々と育っている反面、職員が伝える力、関わる方の向上にも努めなければならない。	B	B	B
3	園同士の交流会や異年齢交流、地域行事への参加を積極的に進め、豊かな人間関係を築く態度を培います。	・こども園、幼稚園、保育所の交流会、幼稚園合同の遠足や運動会などを計画的に実施する。 ・夏祭り、運動会などの園内行事で異年齢交流を積極的に取り入れる。 ・小規模園では、日常的に異年齢のかかわりが持てるよう生活を工夫する。	・園同士の交流会、合同遠足、運動会を計画的に実施することにより、人との関わり、社会性を身につける機会となった。 ・小規模園では園内行事を工夫し、異年齢交流に取組んできた。また、異年齢交流により思いやりの心が育ってきた。	A	A	A

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課 自己評価】	<input type="radio"/>
【教育委員会 評価】	<input type="radio"/>
【外部評価委員会 評価】	<input type="radio"/>

評価者の別 印

こども育成課

- 本年年度の教育推進の重点
 幼児教育
 2 多様な遊び・体験を通して自立と協同の態度を培い「生きる力」の基礎を育む
- 本年年度の推進の重点を具体化した事業
 ①年齢に応じた指導計画に基づく保育(教育)の推進
 ②各種研修会の実施による自己研鑽と資質・技術の向上
 ③運動遊びプログラムに基づく体力づくり
- 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	達成状況	外部評価委員会による評価
4	運動プログラムに基づく体力づくりや園外保育を通して、健康でたくましい身体を育てます。	・運動プログラムに基づき、運動指導員による「運動遊び」の指導を受け、日々の保育の中にも取り入れていく。 ・日課の中に年齢に応じた散歩や運動遊びを取り入れ、体力づくりをする。	・年間を通じた運動遊びを行うことにより、基礎的な動きが豊かになってきた。(127回) ・日課の中に年齢に応じた散歩や運動遊びを取り入れ、体力づくりのため、引き続き指導員による研修を行っている。	B	外部評価委員会による評価
				A	外部評価委員会による評価
				A	外部評価委員会による評価

平成28年度(平成27年度対象) 養父子教育委員会評価調査

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点
 幼児教育
 3 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ①子育て支援事業の充実
- ②要保護児童地域対策協議会の設置
- ③安全安心な園運営
- ④学童クラブの運営充実

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

【担当課 自己評価】
 〇
 〇
 〇

【教育委員会 評価】
 〇
 〇
 〇

【外部評価委員会評価】
 〇
 〇
 〇

評価者の別
 〇 印
 〇

こども育成課

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	外部評価委員会による評価	達成状況
1	子育て支援事業(子育て相談や保護者交流等)などを活用し、子育てに関する情報を広く子育て家庭に知らせます。	・保育所を利用していない乳幼児や保護者に対して、園舎園庭開放や子育て講座、絵本の広場などあらゆる機会を利用して、情報発信や個別懇談の実施など子育て家庭の支援を行う。情報交換の場を設けるなど子育て情報の発信に努める。	A	・園舎園庭開放を市ホームページなどにより情報発信を行った結果、開放日には多くの参加者がある。また、親同士の交流も広がっている。 ・子育てに悩んでいる保護者が気軽に相談できる環境づくりに努め、関係機関と連携し子育て家庭の支援を行うことができた。 ・保護者会行事の場において、子育て情報の発信を行った。	○子育て支援事業(子育て相談や保護者交流等)などで子育てに関する様々な情報を広く子育て家庭に周知されている。今後も子育て相談しやすい環境整備や広報活動の充実に努めていただきたい。	A
2	家庭や地域と協力して食育を進め、生涯にわたって健康でたくましい心と身体を育成します。	・食育だよりや給食だよりを毎月発行し、保護者へ食事の大切さや必要性を知らせるなど、食への啓発を図る。 ・綿密な連携の下、離乳食やアレルギー除去食を提供する。	B	・食育だよりや給食だよりを発行し、保護者への食事の大切さや必要性を知らせることができた。また、献立の掲示などで親子で食への関心を高めることができた。 ○アレルギー対応は、保護者、調理師、担任が連絡を密にすることで対応している。アレルギー児の増加が課題となっている。	○食育だよりや給食だよりを発行し、保護者への食事の重要性について啓発が図られ、保護者、調理師、担任が連絡を取り対応している。今後も細やかな対応ができるよう人的配慮が必要。	B
3	子どもの規範意識や人権感覚を高める取組を進めます。	・物事の善悪、ルール、友達との関係などについて、話し合いを持つとともに、生活の中で丁寧に知らせていく。 ・人権に関わる事例があった場合には、園児にしっかりと考えさせさせる機会を創る。	B	○年齢に応じた対応で、相手の気持ちに気がつくようになり、気になることが起こるとみんなどこでかえ話し合うなど情報の共有を図っている。	○園児は園での生活や遊びを通じて社会性を身に付けていく。年齢に応じた指導や助言を心がけていただきたい。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別 印
 こども育成課

- 本年の教育推進の重点
 1 本年度の教育推進の重点
 推進の重点 幼児教育
 3 子どもを安心して育てられる環境づくりを進める
- 本年度の推進の重点を具体化した事業
 ①子育て支援事業の充実
 ②要保護児童地域対策協議会の設置
 ③安全安心な園運営
 ④学童クラブの運営充実
- 自己評価結果 (A)目標が達成できた B 目標が概ね達成できた C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった

評価項目	取組内容	達成状況	相対評価・改善の方策
4	虐待やいじめの早期発見と予防を目的に、子育てに困り感のある保護者等を対象に、コミュニケーションセンター(被虐待児の保護者支援者)による「たまたかない」「怒鳴らない」子育て手法の普及を図ります。	B	・虐待の発見またはそれを疑った時、要保護児童対策地域協議会を活用し、早期対応と関係機関の役割分担を行う。 ・要保護児童対策地域協議会による虐待予防の講演会開催により、支援者へから子どもたちの様子を把握し、また保護者の育児不安を受けとめることのできるよう、早期発見、通報に努める。
5	施設の安全点検や交通安全指導、避難訓練を計画的に行い、子どもを事故や犯罪、災害から守ります。	B	・年間計画により、施設・遊具の点検や避難訓練を実施するなど、施設の安全管理に努めるとともに職員の見守り意識の高揚を図る。また、所内研修会などで安心安全な施設の管理を確立する。 ・交通安全教室に参加し、職員・園児共に交通マナーの大切さを学ぶ。
6	幼保一元化の全市実現に向け、引き継ぎ認定子ども園移行への取組を進めます。	B	・市内全域において幼保連携型認定子ども園に移行するため、準備をすすめる。 ・平成28年4月には、新たに2認定子ども園が移行予定。幼稚園2園は閉園とする。
7	学童クラブや放課後子どもプランの充実を図るなど、子どもたちの居場所づくりに努め、保護者の職労等への支援を図ります。	B	・市内全10学童クラブを、安心・安全な運営に努める。 ・学童クラブ指導員には、有資格者を基本に配置する。

評価項目	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
4	評価項目ごとの評価 (A)目標が達成できた B 目標が概ね達成できた C 目標が余り達成できなかった D 目標が達成できなかった	B	外部評価委員会による評価 ○積極的に「たまたかない」「怒鳴らない」子育て手法の普及を図っていただきたい。日頃から職員の見守りや相談等保護者との早期発見と育児相談等保護者の指導や啓蒙に努めていただきたい。また、関係行政機関とも連携を図りながら、防止に努めていただきたい。	B
5	計画的な訓練が実施され危機管理に努めている。交通安全教室にも参加し、交通マナーを学んだ。	B	施設の安全点検や交通安全指導、避難訓練を行い、未然に子どもを事故や犯罪、災害から守る体制づくりに努めていただきたい。	B
6	幼保一元化に向けての取組を進められている。	B	スムーズに幼保一元化に向けた取組が進められている。	B
7	利用者に対して、安心・安全な施設でなければならぬ。施設の改修等必要な施設については、計画的な対応が必要である。	B	老朽化した施設も見受けられる。ニーズに合った施設に改善を要する。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】
 こども育成課 〇印

1. 本年度の教育推進の重点

推進の重点 幼児教育 4. 教育・保育施設の機能を充実させ、子育て支援を進める

2. 本年度の推進の重点を具体化した事業

- ①一時預かり等保育事業の充実
- ②子育て情報の発信

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	外部評価委員会による評価	達成状況
1 園・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、子育て家庭の支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎園庭開放や行事の案内などを通して地域に開かれた園をめざすとともに、子育ての核となるよう努める。 ・家庭や地域との連携できよう、地域の行事に積極的に参加する。 ・園が「親と子の育ちの場」となるよう、子育て相談の実施や保護者同士の交流を進める。 ・幼児教育指導主事を配置し、職員の高質向上のための指導助言・就学支援等を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎園庭開放などにより、開かれた園づくりに努めた。 ・また、積極的に地域行事にも参加し、交流を深めた。 ・行事に保護者が積極的に参加することや子育て相談の実施により、情報交換につながり家庭の教育・保育の意識が高まった。 ・幼児教育指導主事が指導助言を行った。 ・園と家庭との役割の明確化が必要 	<p>○園舎園庭開放などにより、開かれた園づくりに努めた。また、積極的に参加し、交流が深められた。また、行事に保護者が加わることで情報交換の場もなった。</p>	B	<p>○地域行事に積極的に参加し、交流を深めている。また、行事には保護者が加わり保護者の情報交換の場となっている。</p>
2 一時預かり保育・延長保育・体験保育を実施するなど、保育の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズや保護者の要望に寄り添いながら、体制を整え実施する。 ・一時預かり保育を市内全こども園、保育所でも実施する。また、延長保育も全こども園、保育所でも実施する。 ・病気などからの回復期にある児童(小学校6年生以下)を預かる病後児保育事業を実施する。 ・こども園、保育所の機能を伝え、育児困難な家庭を積極的に支援する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一時預かり保育を公立・私立こども園、保育所でも実施した。また、延長保育についても同園で実施し、子育て家庭の就労支援などを行った。 ・H27年度一時預かり保育利用者数延べ人数496人(H26 465人、約7%増) ・H27延長保育利用者数延べ4,200人(H26 3,672人、約14.4%増) ・H27病後児保育利用者数0人(登録者数4人) 	<p>○一時預かり保育・延長保育を実施し、育児支援、子育て家庭の就労支援などを行っている。</p>	A	<p>○一時預かり保育・延長保育を実施し、育児支援、子育て家庭の就労支援が進んでいる。</p>
3 保育参観や園庭開放などにより、教育・保育に関する情報を子育て家庭に広げます。	<ul style="list-style-type: none"> ・園便りやクラス便りなどで保育教育方針や子どもの姿を伝えると共に、年間行事に組み込んだ保育参観や各行事で成長を披露しその感想や意見を聞かせてもらうなど、情報の発信と収集に努める。 ・未就園児家庭への園行事への参加や開放日の利用など、開かれた園づくりに努める。 ・オープン保育などを利用して、園の運営方針を話し機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや園だより等を活用し、園の情報発信に努めた。 ・園舎園庭開放により、自由に保育を参観できるよう努めた。 ・発表会などを通して日々取り組んでいる物事を披露した。 ・保護者会の行事などで園の運営方針の周知に努めた。 	<p>○ホームページや園だより等を活用し、園の情報発信に努めている。また、オープン保育により、自由に保育を参観できる取組み実施し開かれた園運営が行われている。</p>	B	<p>○ホームページや園だより等を活用し、園の情報発信に努めている。また、オープン保育により、自由に保育を参観できる取組み実施し開かれた園運営が行われている。</p>

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査書

【担当課 自己評価】	○
【教育委員会 評価】	○
【外部評価委員会 評価】	○

評価者の別
 印
 印

こども育成課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 4 幼児教育・保育施設の機能を充実させ、子育て支援を進める
2 本年度の推進の重点を具体化した事業 ①一時預かり等保育事業の充実 ②子育て情報の発信

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
4 園評価の実施により、保育の質の向上を図り保護者との信頼関係を築くとともに開かれた園運営に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 園評価の結果を保育活動に反映させ、地域や保護者から信頼される園になるよう努力する。 園評価を実施し保育や運営などの見直しをするとともに、園内での話し合いやオープン保育、保育参観などに反映する。 園の自己評価を行い、課題を明らかにする。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 園の自己評価を行い、課題について園内会議等で検討した。 評価項目の見直しや評価結果の公開の方法など精査が必要。
5 専門研修の実施や関係機関が主催する研修会に参加し、職員の実践的指導力を高めるとともに質の向上に努めます。また、公開保育などの機会を捉えて指導方法に関する情報交換を行い、教育・保育課程の充実に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修や公開保育研修、歳児別研修、所長研修、さらには自主研修の「やっがー研」などに積極的に参加し、教育・保育の見直しや自己研鑽へとつなげていくなど職員の資質向上と保育の充実に努める。 市内の保育教諭同士で研修テーマを揚げ課題に向けた意見交換や情報交換などをしながら、共通意識を持つよう努める。 研修では積極的に公開保育を取り入れ、市内の保育教諭がテーマに基づいた研修をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に研修に参加するとともに、市内の職員同士が協同研究することを通して、実践的指導力を高めることができた。 公開保育を受けることで、教育・保育の質の向上につながる。 (H27公開保育実施回数 9回) 人員が不足するなか通常業務体制の確保が難しくなっている。工夫をしながら自己研鑽に努めたい。

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 園の自己評価を行い、課題について園内会議等で検討しているが、評価項目の見直し、評価結果の公開方法については、検討が必要である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 園の自己評価を行い、課題について園内会議等で検討され園運営に生かす努力は見られる。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に研修に参加して、保育教諭の資質向上に努めている。また、公開保育により一層の質の向上が図られた。 人員が不足し通常業務体制の確保が難しくなっているが工夫をしながら自己研鑽に努められた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に研修に参加して、保育教諭の資質向上に努めている。通常業務体制の中で工夫をしながら自己研鑽に努められた。 	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調書

【担当課自己評価】
 【教育委員会評価】
 【外部評価委員会評価】

評価者の別 印
 社会教育課

1 本年度の教育推進の重点

社会教育 推進の重点 1 市民の学習ニーズに応える社会教育・生涯学習を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

●成人式の挙行

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
社会教育委員会や社会教育関係団体と連携し、社会教育行政や施設運営、生涯学習の推進に市民のニーズが反映されるよう努めます。	①社会教育委員会の開催 委員12名で、年2回委員会を開催する。 ②記念館の管理運営 山田風太郎記念館では講演会、上垣守国養蚕記念館では6月かいこウィークを開催し、大庄屋記念館では市内小学校の団体見学を実施する。 ③平成28養父市成人式の開催 平成28年1月10日(日)、成人式を開催した。新成人による成人式実行委員会により運営して成人式を開催する。	B	①放課後子ども教室事業を視察し、年2回の委員会を開催した。 ②二人の先人を顕彰し、さらには地域連携も重要である。大庄屋記念館では市内9小学校を受け入れ体験学習に寄与した。 ③新成人200人が出席した。若者のUターンを訴え、養父市で元気に働く「先輩からのメッセージ」を制作・上映活躍するよう促した。 ④41年間続いた兵庫県の派遣社会教育主事が廃止され、専門職員の前減により活動が難しくなった。

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
〇大庄屋記念館は市内全小学校を受け入れ、昔の生活の体験学習に寄与している。 〇成人式において「先輩からのメッセージ」を上映し、新成人へ養父市への定住を呼びかけ、今後の活躍に期待するエールを送った。 〇成人式も新成人が工夫を凝らし魅力ある成人式が挙行されている。 〇公民館が所管している文化・芸術活動、文化団体の活動が社会教育に含まれていないことに違和感を感じる。	B	外部評価委員会はそれぞれ工夫され運営されているが、さらなる来館者増加に向けて創意工夫し貴重な施設を維持していただきたい。 〇成人式も新成人が工夫を凝らし魅力ある成人式が挙行されている。 〇公民館が所管している文化・芸術活動、文化団体の活動が社会教育に含まれていないことに違和感を感じる。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会評価】

評価者の別
 甲
 乙

社会教育課

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 社会教育 2 ふるさとの文化財を継承し、その保存と活用を進める
2 本年度の推進の重点を具体化した事業 ●重要伝統的建造物群保存地区の調査

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
1	市内にある指定文化財を調査・保存し、その魅力を発信します。埋蔵文化財は開発との調整を図りながら調査を進めます。原始・古代の昔から受け継がれてきた文化財の保護・活用に努めます。	①文化財保護審議会の開催。委員8名で2回開催する。 ②パンフレットを作成する。 ③埋蔵文化財と開発事業を調整する。	B	①八木・明延地区を視察し、養父市指定文化財を審議し「明延弘山明神電車」を指定した。 ②パンフレット「八木城跡」を作成し配布した。 ③開発工事に伴って埋蔵文化財包蔵地の指導や調査を実施した。	〇明延弘山明神電車を養父市指定文化財に指定した。 〇八木城跡のパンフレットを作成し関係者等に配布できた。	B	〇市内の指定文化財を調査・保存し、その魅力が発信されている。今後とも市内外に情報発信され市民の誇りとなるよう努めていただきたい。
2	市民の手により継承されている伝統芸能や伝統文化の保護団体、および文化財の保護団体の活動を支援します。市内にある国・県・市の指定文化財等の保存・修復の支援に努めます。	①伝統芸能継承団体や指定文化財保護団体などの活動支援をした。 ②養父市が所有する国指定文化財の史跡や天然記念物などを適切に管理する。 ③建造物等の文化財修理を支援する。 ④史跡八木城跡殿屋敷地区を整備する。	B	①市民団体と連携し、市民団体の活動を支援した。 ②国指定文化財「樽見の大ザクラ」「箕谷古墳群」などの文化財を管理した。 ③県登録文化財養父神社、国指定文化財名草神社の修理工事を支援した。 ④八木城跡殿屋敷地区を発掘調査し、整備を実施した。ために鹿網を設置した。	〇樽見の大ザクラの保護活動に尽力された。 〇国指定文化財名草神社の修理工事、八木城跡殿屋敷地区の整備を実施した。	B	〇市民が愛し、継承、維持してきた文化財や伝統行事が絶えることなく引き継がれていくよう、今後も支援に努めていただきたい。
3	市内に残る近代化遺産、伝統的建造物などを調査し、養父市らしい歴史と文化に根ざした地域づくりなどの活動を支援します。	①伝統的建造物群保存地区として大屋町大杉地区の調査を実施する。	B	①建造物調査を実施した。さらには、伝統的建造物群保存地区の推進のため、条例・規則を整備した。	〇伝統的建造物群保存地区は、観光資源としての価値があるので情報の発信とともに有効な活用が望まれる。	B	〇観光資源としての値打ちもあり関係機関と連携しながら養父市誇れる遺産として生かしていただきたい。

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調書

【担当課 自己評価】
 【教育委員会 評価】
 【外部評価委員会 評価】

評価者の別 印

社会教育課

1 本年度の教育推進の重点

社会教育
 3 家庭・地域・学校が連携して、豊かな心を育む青少年の健全育成を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

●放職後子ども教室の実施

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった)

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
1	家庭・地域・学校の連携のもと、地域資源を活用した体験活動の機会を提供し、青少年が健全に育つ環境づくりを進め、ふるさとへの愛着と帰属意識を育てます。	B	①子どもたちに様々な体験学習や活動の場を提供できた。
2	地域のボランティアなどの参加を得て、「学校支援地域本部事業」や「放職後子ども教室事業」等を実施し、地域全体で学校支援、子どもたちの居場所確保に努め、地域の教育力を高めまます。	B	①各学校で、地域ボランティアの協力を得ながら円滑に事業が行われている。 ②自治協議会や市社会福祉協議会と連携し、市内8小学校区で8教室を開設した。ボランティアスタッフを確保し、事業の推進体制を作った。
3	PTAや子ども会活動等を支援し、子ども同士や親子、地域の交流を図ります。	B	①保護者による家庭教育やPTA活動に対する意識を高めることができた。参加者243人。 ②大会を通じて、市内児童および親子の交流を図ることができた。48チーム、参加者539人。
4	一人一人を大切に、支え合う社会づくりを推進するため、子どもたちが命の輝きや思いやりの心を学ぶ機会を提供します。	B	①親子で愛と友情、命の大切さについて考える機会を提供した。参加者84人。

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価	達成状況
○今後も関係団体と連携して事業実施すること。	B	○関係団体との連携によりスムーズな運営ができています。また、ボランティアスタッフを確保し、事業実施している。	B
○関係団体との連携によりスムーズな運営ができています。また、ボランティアスタッフを確保し、事業実施している。	B	○関係団体との連携によりスムーズな運営ができています。また、ボランティアスタッフを確保し、事業実施している。	B
○PTA連絡協議会並びに子連協の活動支援を行っている。両団体のメイン行事であるPTCA研修会、ドッジボール大会は盛会に実施され、保護者の交流の場となっている。	B	○それぞれの団体の自主性、主体性が発揮されるような支援に努めていただきたい。	B
○人権講演会との相乗効果を図るとともに、親子で命の大切さを見つめ直す機会が提供できている。	B	○人権講演会との相乗効果が図られている。	B

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会 評価調査

1 本年の教育推進の重点

推進の重点「元気な養父市〜ひとり1スポーツで健康づくり〜」を進める

2 本年の推進の重点を具体化した事業

- 年間を通したスポーツイベントや教室などの開催及び地域でのスポーツ活動推進への支援
- 生涯スポーツ・健康づくりの推進
- 施設の適正管理と安全対策

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
スポーツがもたらす健康や生きがい、交流づくり等への効果を再認識し、特に成人が週1回以上スポーツ活動に親しむ機会をもつなど、子供から高齢者まで生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に取り組みます。	<p>■スポーツイベントの開催</p> <p>1) 第5回養父市ウォークラリー大会 開催日 平成27年5月31日(日) 場所 養父地域(広谷小学校周辺) 参加者 約100人規模</p> <p>2) 第6回養父市スポーツフェスティバル 開催日 平成27年7月19日～8月22日 場所 つるぎが丘公園 他市内体育施設 種目 ソフトボール他 全15種目 参加者 約1,000人規模</p> <p>3) 第24回養父市イヌフジ大会 開催日 平成27年9月23日(秋分の日) 場所 関宮小・中学校周辺農道コース 部 門 一般、中学生、小学生 各男/女 参加者 130チーム規模</p> <p>4) 第9回養父市ロードレース 開催日 平成27年11月8日(日) 場所 全天候運動場～小佐方面 部 門 ハーフマラソン他 全19部門 参加者 850人規模</p> <p>■全天候運動場主催事業</p> <p>1) スポーツ教室 種目 ジェ7陸上ｽﾀｰﾄ他 全5教室 受講生 300人規模</p> <p>2) スポーツ大会 種目 ｶﾞﾗｯﾄﾞ・ｼﾞｭｰｽﾞ 全5回 参加者 900人規模</p> <p>■生涯スポーツ・健康づくりの推進</p> <p>1) 「正しいラジオ体操」の普及・推進 ・いつでも、どこでも、誰でもが気軽にできる健康づくり活動として普及、拡大を図る。</p> <p>2) 【出前講座】 3回 参加者 約140名 ・ウォーキングを活用した兵庫県健康づくり推進事業である講習会を講義や実技指導など3日間に分けて開催。 開催日 平成27年9月29日、10月6日、13日 場所 養父体育館ほか 参加者 176名(延人数)</p>	B	<p>■スポーツイベントの開催</p> <p>1) 市民ニーズの高いウォークラリーを実施した。</p> <p>2) 小学生から高齢者まで幅広い年齢層による夏のスポーツイベントとして、市民に定着しつつある。</p> <p>3) 多くのチームを迎えて開催した。例年に比べ一般の部の参加が増えたが、スタート地点等道幅の狭い箇所があるため、今後、参加者数が増加する場合は、危険を伴うため、開催場所の検討が必要である。</p> <p>4) 開催日を一月遅らせたことにより参加者が大幅に減少した。早い時期から周知し、参加者の増加を図る必要がある。</p> <p>■全天候運動場主催事業</p> <p>・前年度の事業参加者の声を反映しながら、生涯スポーツの推進へと繋がるよう、全天候運動場の利点を生かしたスポーツ・交流・生きがい創造事業を一年を通じて展開した。</p> <p>■生涯スポーツ・健康づくりの推進</p> <p>1) 出前講座で、地域や小学校に出向き「正しいラジオ体操」の推進を行った。地域でも取り組んでいるところが増加してきたが、今後より一層の普及と推進を図る。</p> <p>2) 今年度初めての取り組みで、講師を招き「ラジオ体操」講習会」を行った。フィットネスや健康ライフ、無理のないスポーツということもあり人気であった。今後は、他部署とも連携を図り、健康づくりや地域づくりまた観光も含めた事業を展開していく。</p>

評価者の別

○ 担当課自己評価

○ 教育委員会評価

○ 外部評価委員会評価

生涯スポーツセンター

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
<p>○市民ニーズの高いウォークラリーを開催された。</p> <p>○6回目を迎え幅広い年齢層による各種スポーツ大会として定着している。</p> <p>○今年も多くのチームを迎えて開催できた。一般の部の参加も増え充実した大会であった。ただし、コースの一部に不具合な箇所があり一考を要す。</p> <p>○参加者が約半減した。開催日等早めに周知することと内容、もてなし等検討の余地がある。</p> <p>○参加者の声、施設の利点を生かした大会、教室が展開されている。また、生きがい創造事業を毎年実施し好評を得ている。</p> <p>○ラジオ体操に取組む地域やグループが増加している。引き続き普及を図る。</p> <p>○新しい健康づくり運動の紹介が実施されている。スポーツや健康づくり運動の習慣化に向けた取組を今後とも強化する必要があり。</p>	B	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>○各スポーツイベント、スポーツ教室、全天候運動場主催事業では様々な年齢の市民が参加できるイベント・教室が実施できている。</p> <p>○生涯スポーツ・健康づくりの推進ではラジオ体操に取り組む市民も増加している。新しいラジオ体操健康づくり運動も紹介されている。関係行政機関や市民団体、自治協議会等と連携し、全市民を挙げて健康・体力づくり運動に取り組んでいただきたい。</p>

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会 評価調査書

1 本年の教育推進の重点

推進の重点 「元気な養父市〜ひとり1スポーツで健康づくり〜」を進める

2 本年の推進の重点を具体化した事業

- 年間を通したスポーツイベントや教室などの開催及び地域でのスポーツ活動推進への支援
- 生涯スポーツ・健康づくりの推進
- 施設の適正管理と安全対策

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

【担当課自己評価】
 〇
 〇
 〇

【教育委員会 評価】
 〇
 〇
 〇

評価者の別

生涯スポーツセンター
 〇
 〇

【外部評価委員会評価】
 〇
 〇
 〇

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が余り達成できなかった D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策	自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
市民が生涯にわたってそれぞれの年齢や体力、目的などに応じて、いつまでも、どこでも、誰でも気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりに努めます。	<p>■スポーツ施設の維持管理と運営</p> <p>1) 指定管理施設の管理運営 指定管理施設が効果的・効率的に市民に活用されるよう、モニタリングや運営協議会を定期的に実施するとともに、必要な改修を行い施設の適正管理に努める。</p> <p>①おおよやスポーツセンター等施設 管理者 代表 全但バス(株) 期間 平成25～27年度(2期目) 概要 自主事業や積極的なPR活動により、地域に密着した施設の管理運営に努める。</p> <p>②養父市都市公園(つるぎが丘公園)施設 管理者 代表 全但バス(株) 期間 平成26～28年度(3年間) 概要 温水プール、健康増進施設等を利用する市民の健康づくり活動への支援と、公園内体育施設の維持管理に努める。</p> <p>2) 全天候運動場施設の管理運営 概要 天候に左右されない運動施設としての特性を活かし、年間を通じて安全・安心にスポーツ・交流活動ができるよう、適切な施設維持と管理運営に努めている。</p>	B	<p>■スポーツ施設の維持管理と運営</p> <p>1) 募集時の要項や協定書に基づき、適正な管理運営が図られているか、モニタリングや管理指導に努めた。</p> <p>①第2期目の3年目として、引き続き地域密着型のスポーツ施設として積極的に事業を展開している。</p> <p>②指定管理2年目として運営を行った。目標達成に向けて、各施設利用者の増加を図るとともに、施設の維持管理に努める。</p> <p>2) 全天候運動場施設の管理運営 ・常に快適な状態で利用できるよう、施設設備の補修や管内清掃、外部の環境整備に努めた。 ・使用料について、近隣の類似施設と均衡を図るため、また少しでも交付金を確保するため平成28年1月から増額の改正を行った。 ・無料送迎バスについて、但馬内の送迎を行っていたが、市が管理する他の施設利用者に対しバス運行していないこと、また、経費削減を図るため平成28年1月から市外利用者の送迎を廃止した。</p>	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>〇指定管理施設は効果的、効率的に利用されている。今後も利用者の増進に立った利用しやすい施設や運動プログラムの提供に努め、市民の健康・体力づくり、スポーツ活動の拠点となるよう努めていただきたい。</p>	B	<p>外部評価委員会による評価</p> <p>〇指定管理施設は効果的、効率的に利用されている。今後も利用者の増進に立った利用しやすい施設や運動プログラムの提供に努め、市民の健康・体力づくり、スポーツ活動の拠点となるよう努めていただきたい。</p>

平成28年度(平成27年度対象) 養父市教育委員会評価調査

1 本年度の教育推進の重点

推進の重点 「元気な養父市～ひとり1スポーツで健康づくり～」を進める

2 本年度の推進の重点を具体化した事業

- 年間を通じたスポーツイベントや教室などの開催及び地域でのスポーツ活動推進への支援
- 生涯スポーツ・健康づくりの推進
- 施設の適正管理と安全対策

3 自己評価結果 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が達成できなかつた D目標が達成できなかった)

評価項目	取組内容	達成状況	担当課評価・改善の方策
<p>3</p> <p>体育協会やスポーツ団体の活動を支援し、スポーツ人口の拡大や地域のスポーツ活動の振興により、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化を推進します。</p>	<p>■スポーツ団体への活動支援</p> <p>1) 養父市体育協会 養父市体育協会(全18種目、約3,000人)の活動への補助と事業連携により会の活性化を支援する。</p> <p>2) スポーツクラブ21 市内小学校区に設置された全18クラブの基金管理や交流活動への支援により、会の適正な運営を継続させる。</p> <p>■スポーツ顕彰制度</p> <p>1) 養父市スポーツ賞 養父市のスポーツ振興に功績のあった者(団体)及び優秀な成績を取った者(団体)に対する表彰を行う。</p> <p>■スポーツ傷害保険助成制度</p> <p>・保護者、指導者、子供達が安全で安心してスポーツ活動に取り組めるよう、スポーツ保険の加入促進を図る。</p> <p>対象 市内小学生 内容 1人当たり1,450円/年額を助成</p>	B	<p>■スポーツ団体への活動支援</p> <p>1) 加盟団体の活動への支援を行うとともに、連携した事業推進に努めた。</p> <p>2) 連絡協議会主催によるグラウンド・ゴルフ大会を開催し、市内スポーツクラブの交流を図ることができた。</p> <p>■スポーツ顕彰制度</p> <p>1) 本年度は該当なし</p> <p>■スポーツ傷害保険助成制度</p> <p>・約300人の助成を行っており、高水準の補償制度に加入出来ることから、関係者等から好評を得ている。今後も継続する。</p>
<p>4</p> <p>市民や地域との連携・協働によるスポーツ活動の振興を図るとともに、保健・医療や生涯学習等の行政関係機関との積極的な連携により、スポーツ振興策を効果的に展開します。</p>	<p>■健康・スポーツ活動の推進体制の整備</p> <p>1) 養父市スポーツ振興協議会等の開催についても、誰でもが実践できる生涯スポーツの普及と、市民の健康増進による元気な地域社会を目指し、市民の協働で推進するために設置する。</p> <p>2) 関係機関との事業連携 市内スポーツ団体や介護サポーター、市健康課、介護保険課等との連携事業として、体力測定会などの健康づくりの普及、推進事業を展開する。</p>	B	<p>■健康・スポーツ活動の推進体制の整備</p> <p>1) スポーツ振興に対する市民意識の高揚を図るためにも、より充実した会の運営の必要がある。</p> <p>2) ラジオ体操、ノルディックウォーキング、体力測定会など効果的に事業を推進するためにも、引き続き事業連携の必要がある。</p>

評価者の別

○ **【担当課自己評価】**

○ **【教育委員会評価】**

○ **【外部評価委員会評価】**

○印

生涯スポーツセンター

4 評価項目ごとの評価 (A目標が達成できた B目標が概ね達成できた C目標が達成できなかつた D目標が達成できなかった)

自己点検・評価委員会による評価	達成状況	外部評価委員会による評価
<p>○加盟団体の実施するスポーツ事業に対して的確な指導・助言を行い一層の支援を行い各団体の育成に努めている。</p>	B	<p>○市体育協会、各スポーツ団体の活性化につながる支援に努めていただいた。</p>
<p>○加入することにより安心してスポーツに打ち込める。保険代を助成していることへの周知を図られた。</p>	B	<p>○健康・スポーツ団体、各種団体と連携し市民の健康・体力づくり運動の成果が見られる。今後も各種団体と連携し、スポーツによる市民の健康最善とスポーツ文化の振興に努めていただきたい。</p>
<p>○スポーツ振興協議会を定期的に開催し、スポーツ・健康づくりに関しての多様な意見を聴取し、スポーツ振興に生かす必要がある。</p> <p>○スポーツ関係団体や関係行政機関との連携を強固なものとし、スポーツ振興を効果的に展開されたい。</p>	B	A